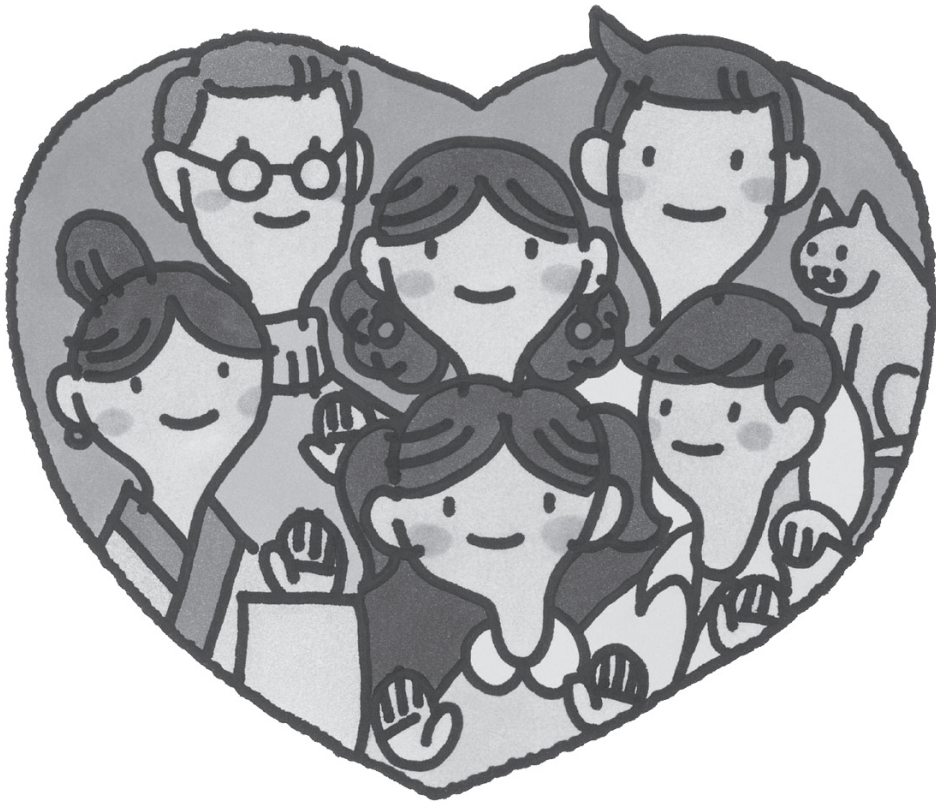


ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。



**養育家庭(ほっとファミリー)  
体験発表集  
(平成19年度)**



 **東京都福祉保健局 少子社会対策部**

## 「養育家庭体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子どもが約3,900人います。このような子どもたちを、実の親にかわり、家庭的な環境の下で育てているのが「里親」です。

都の里親制度は、「養育家庭」と「養子縁組里親」に大きく分かれています。とくに、養子縁組を目的としないで、子どもを家族の一員として迎えていただく里親を「養育家庭」、又は「ほっとファミリー」という愛称で呼び、普及啓発につとめています。

そして、このような子どもの状況とほっとファミリーを理解していただくため、都では各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成19年度に開催された養育家庭体験発表会において、ほっとファミリーの方々に発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子どもに出会ったときのことや交流中の出来事、委託後の子どもの赤ちゃん返りや問題行動などへの対応など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子どもが少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、ほっとファミリーをやっていて良かったというものや、子どもから喜びや幸せをもらっているというものなど、ほっとファミリーとして経験した子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成20年9月

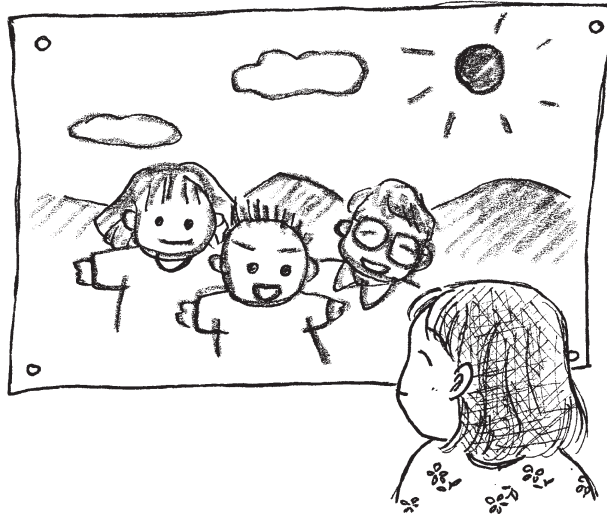
東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

松 山 祐 一

## 目 次

1	あるがままの自然な家族 .....	2
2	娘へ～あなたはひとりじゃないよ～ .....	4
3	血がつながらなくても、温かい家族の形 .....	6
4	「里親」という名前の親 .....	8
5	魔女のいるほっとファミリー .....	10
6	フレンドホームから里親へ .....	12
7	我が家のほっとサマー.....	14
8	大きい男の子ばかりで .....	16
9	エプロンから生まれた里子たち.....	19
10	大切な子 .....	21
11	普通がしあわせ .....	23
12	一年の交流を経て .....	25
13	気がつけば4人の母親に.....	27
14	人生二度たのしんでます！ .....	30
15	里親をライフワークとして .....	32

## 養育家庭体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、18人のほっとファミリー、元里子、実子の方たちの養育体験が赤裸々につづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子どもたちを支えることにつながるのです。

# 1 あるがままの自然な家族

## 【里母】

私の家族は、夫婦と高一と中二の男の子に、委託されて3年になる4歳の男の子の5人家族です。私が里親になろうとしたきっかけは、私が独身で児童養護施設に勤めていた時にさかのぼります。当時、園長の仲人で学園を卒業した子ども同士が結婚したのですが、親のいない辛さを充分知っているはずのその夫婦が離婚することになって、園長はとても心を痛め残念がっているという話を聞いて、子どもは施設で育てるのではなく、家庭で育てなければいけないなと思いました。

その後、自分の人生の方でてんやわんやしておりましたので、すっかり忘れておりましたが、ある友だちが里親になってかわいい男の子を育てていたのを見て、彼女の家族に背中を押されるような形で、里親登録をしました。

約1年後にTちゃんが紹介されました。事前の情報では、この子はとても慣れにくく、人見知りが激しくて、泣き声がすごく大きく、ちょっと泣いたら周りの子がみんな起きちゃうようなところがあり、特に男の人に対しては全然つかないとのことでした。見たら固まってしまうか、もしくは泣いてしまうので福祉司さんも会いに行くたびに泣かれているようで、「Yさんも長い目で交流してください」と言われました。

しかし、実際に彼と会う時、泣かれるかなとドキドキしながら会いましたが、全然そういうことはありませんでした。本当にすんなりと私の膝に抱かれて、30分ぐらいしか面会していなかったのですが、保育士さんが「こっちにおいで。」と手を差し伸べても、ずっと私にしがみついていた。彼がすんなり私たちを受け入れてくれたので、とてもかわいくて、ドキドキわくわくしながら週3回、通い続けた覚えがあります。時間的にも肉体的にもちょっと負担がありましたが、おかげで信頼関係が深まることとなり、5週間後に委託となりました。

委託の当日、Tちゃんは自宅に着くと顔は強張り、ごはんは食べないしミルクは飲まない、「ねんねしよう。」と言っても寝ませんでした。でも、やっぱり1歳半なので8時ぐらいにはコテンと寝ましたが、次の朝になると、目覚めたとたんにくしく泣いていました。まずは彼の精神安定が先決と、大柄の重い子でしたが、1か月ぐらいはよくおんぶや抱っこをしていました。

その後、乳児院の先生に会いに行った時に、「2か月しかたっていないのに施設での顔と全然違う。言葉もピーポーパーポーぐらいしか言わなかったのが、いろいろな言葉を使う。家庭で育つのがどれほど刺激があって、成長に影響を及ぼしているのかがよくわかる」と、おっしゃってくださったことに感謝しました。

里親になり予想と違っていたことは自分自身の心でした。私は里親になって自分の子と里子とを同じように愛せると思っていました。里子もだんだん慣れてきて、わがままを言ったり、いたずらしたりして、言うことを聞かなくなったことがありまし

た。その時に私は思わず「言うことを聞かないんだったら施設に帰すよ。」と言ってしまったんです。私は自分が発した言葉に自分でショックを受けました。私は実子と同じように愛するつもりで、育てるつもりで受けたのに、根っこのところでこの子は違う子っていうふうに思っていたんだと、すごくショックだったのです。反面、自分はそういう弱さがある人間なんだということを自覚することもできました。それでも彼のことはとてもかわいし、とても愛すべき存在であるということに変わりはなく、ここまでやってこれていると思っています。

今、彼は通称名を使っていますが、もともと私は里親になったら里子は実名で育てようと思っていました。ところが、私の所属する里親支部の30周年記念パーティがあった時に、子どもたちが里親さんの名前で自己紹介をしていました。それを聞いてとても温かい気持ちになりましたので、通称名もいいなと思うようになりました。

Tちゃんは2歳から保育園に行っていますが、2歳児の時は実名を使っていました。自分がここのうちの子じゃないというのをわかってから通称名にしようという思いがあったからです。しかし、3歳になった時に自分の持ち物に名前を書いているんですが、それを通称名の「Y、Tちゃん。」と読んだんですね。これは自然のことだと思いますが、それを聞いていた主人が「Tちゃん、Yになる？」って言ったら、とても喜んで、飛びはねながら「なるなる。」って言うんですね。だから、3歳児の途中から保育園の方もYの姓を名乗らせてもらっています。

Yの姓に変わってからというもの、彼は本当にのびのびと変わっていきました。私も呼名がYに変わってから本当に自分の子っていうような感覚が更に強くなってきました。4歳になる手前のころ、「お母さん、何で僕を生んでくれなかったの？」って言ってくれた時は本当に嬉しかったです。

その後、Tちゃんがわがままを言ったときに、主人が「言うことを聞かないんだたらうちの子じゃない」なんて言ったら、「おかあさんに会いたいよ」「おうちに帰りたいよ」と、しきりに言っていました。その時は、本当に悲しい思いをさせているなと感じてしまいました。そういうふうに悩んで、辛いこともありました。最近になって、「入院しているお母さんが退院してきても、僕はこのうちの方がいいな」って言ってくれるんですね。私はすごく嬉しかったのですが、その後に「でも、僕はそっこのうちの子だからね」って言っています。

いろいろなことがあります。夫婦仲良く、楽しい家庭を築いて、将来、実子も里子も同じようにそんな家庭をつくってほしいと願いながら子育てをしています。問題も多く、欠点ばかりの夫婦ですが、ケンカをしたり、許しあったりしながら、あるがままの自然体でいきたいなと思っています。

## 2 娘へ ～あなたはひとりじゃないよ～

【里母】

養育家庭となって半年後、児童相談所から幼稚園年長の女の子の紹介がありました。最初はとても人見知りが強く、彼女の方から私たちに寄ってくるということはありませんでした。交流を重ねて家に来て、施設に帰ると「とても楽しかった」と話すのですが、私たちが迎えに行く度に行き渋りが激しくなってきました。冬休みの頃、車で1時間かけて施設まで迎えに行っても「行きたくない」と言われ、もう一度出直すということが度々ありました。そんなに嫌なのに無理に我が家に連れてきてよいものか、お正月頃、夫と毎晩のように話し合いました。「今、私たちがここで交流を打ち切ってしまうことは簡単で、私たちにはまた新しい子どもが紹介されるかもしれない。けれどこの子にとってはどうなのか。この子がまた他の里親さんを紹介され、同じようにまたダメになってしまうと、この子はずっと家庭というものを知らないまま育てていくかもしれない。それだったら、もう少し頑張ってみよう」ということになりました。そして、小学校入学の時期を目標に交流を重ね、2月の終わりに身一つで我が家にやってきました。

1歳になる前から施設で暮らし、家庭での生活も学校生活も彼女にとってはどんなにか不安だったと思います。しかし、子どもの順応性と成長には驚くべきものがあって、我が家に来て1か月半もすると、慣れるどころか私に対してわがままも出てきました。大人しく引っ込み思案な女の子とばかり思っていました。実はそうではなく、どこにいてもわかるくらい大きな声で話し、実にひょうきんな女の子でした。交流中は、よくもあんなに静かで何も喋らず、朝起きてきちんとお布団の前にパジャマをたたむなど良い子を演じ、どれほど疲れていたのか、行きたくなかったのも無理はないなど、今になっては思います。

それから運動能力はすごいパワーを持っていて、1年生のときのマラソン大会は、23位でしたが、2年生ではいきなり4位！ 通知表も体育はバッチリで、実子のときには味わうことができなかった楽しみを味わっています。学校でも近所の人たちにも「表情が明るくなったね」と言われるほど、元気によく笑っています。いろいろな方々の関わりによって、少しずつ娘の中に自信が芽生えていることがわかります。とは言え、まだまだ私たちに自分を見てほしいという気持ちをぶつけてきます。

反面、とてもあまのじゃくのところが有って、私が「右」というと左をやります。素直に甘えるという経験があまりなかったのか、私が「抱っこしてあげる」と言っても、逃げ回ります。抱っこされて甘えるより、怒られることで自分の存在を確認しているところもあります。学校生活でも「いけない」というものを持っていたり、友だちのお母さんに謝りに行くようなこともありました。私にはこれまでそうした経験があまりなく、また年齢的に自分の娘ほどのお母さんに謝ることはとても胃が痛くな

るような思いでした。そんなとき校長先生が「問題が起きるといことは動き始めたということですよ。じっとしていたら何も起こりません。いいじゃないですか、親は謝ってなんぼのものなのだから、大いに謝って歩きなさい」と励ましてくださいました。

子育て経験は長くても、里親としては2年半と未熟なところがたくさんあり、周りの方々の理解と励ましに支えられてきました。私たちの家庭の事情を知ったうえで「私にできることはないかしら」と一緒に考えてくださる方々や同じ里親さんなど、気がついてみると私たちには娘が来なければ知り得なかったたくさんの方々との出会いがありました。いろいろな人との関わりや助け合いの中から、親も子も成長していきます。里親にとって、一言の温かい励ましが本当にありがたく、力になることがあります。もし地域の中にそのような親子がいたら、ぜひ関わっていただけたらと思います。

最近、「宿題をやりなさい。」という、「何でそんなこと言うの、うるさいな。本当のお母さんじゃないくせに。」と言ってくる。私も負けずと「私が本当のお母さんだろうとなかろうと、あなたが宿題をやらなければならないことに変わりはないの。そのぐらいのことでひるんでいるようでは、24年間もお母さんをやっていられません。」と目一杯言い返します。ただ心の中では、「とてもあまのじゃくで強がってしまうけれど、本当は寂しがりで、一人でいるよりはみんなでわいわいと騒ぐ方が好きだし、クリームとあんこは嫌いだけれどもチョコレートは大好きだとか、そんなあなたのことを一番知っているのが私だよ。」と思っています。そして、「誰よりもあなたが、本当に幸せな人生を選びとってほしい、幸せに生きていてほしい。」と願っているのが、お父さんとお母さんなんだよと。

いつか、実のご両親に会うことができたなら、「この子は本当に一生懸命生きてきました。寂しい思いも苦しい思いも全部乗り越えて立派に生きています。どうかこの子を産んだことを誇りに思ってください。」と伝えたいなと私は思っています。実の子であっても、里子であっても、さまざまな困難を乗り越えて一人の人間として自立していく姿を、見つめ喜べる、それが今、私と夫にとってこの上ない幸せとなっています。里親でいられることに心から感謝しています。





### 3 血がつながらなくても、温かい家族の形

#### 【里母】

里親をすることになった動機ですが、1年前の夏にささいなことで夫婦喧嘩をしました。うちの主人は結構自分の気持ちをため込む性格ですが、2、3日色々と考えたようで、「里親をやりたい」と突然言い出しました。50歳を過ぎ、これからの人生を後悔したくないからと言い、世の中の役に立ってみたいということと、うちには子どもがいないので子育てをしたいということでした。私も不妊治療をしておりましたので、主人は私のことを思い、なかなか言い出せなかったようですが、その喧嘩をきっかけに自分の気持ちを話してくれました。私は、恥ずかしながら主人に言われるまで里親のことを余りよく知りませんでした。でも、子どもが大好きで保育の勉強もしたことはありました。

私は、両親・弟の4人家族以外の親族・親戚とは血のつながりはありません。両親からそのような説明を受けても余り違和感を持たず、心から可愛がってもらったり、思いやってくれたり、怒ってくれれば心は通じるんだなあという思いがあったので、主人と2人でこれからの人生を頑張ってみようかなと思いました。そして、児童相談所にすぐ電話をしました。

2月末に新規登録時研修を受講し、5月に3歳の男の子のお話を頂きました。研修で施設見学に行ったときに会っていたお子さんでしたので、やはり縁があるのかなと主人とも話していました。2週間後、施設に面会に行きました。同じ部屋の子どもたちとおやつを食べているところでした。みんな興奮して遊び、その男の子も私の膝の上にちょこんと座って絵本を一緒に見たり、なかなか良い感じで、児相の方たちも「良かったんじゃないですか。」と言ってくださいました。

しかし、その後、連絡が取れなかったはずのその子の実母から養育家庭に出すことを拒否され、諦めざるを得ませんでした。1回だけでしたが、とても可愛くて、自分達の気持ちの整理は大変で、それと同時に子どもも傷つかなければいいなと思いました。

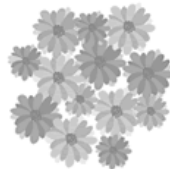
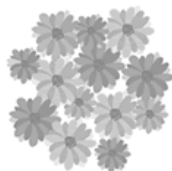
今年の9月、2歳4か月の男の子のお話を頂きました。希望した年齢より小さいものの、なつくのが早いからと薦められました。乳児院のプレイルームで保育士さんと遊んでいる所に面会に行きました。乗り物が大好きな男の子でした。毎週木曜日に私1人で面会に行き、保育士さんと相談し(自分たちを)パパ・ママと呼ばせるようにし、本人も3回目くらいから口にするようになりました。9月の下旬から乳児院の、キッチン・お風呂・トイレつきワンルームを借り、9時半から4時ごろまでの交流を繰り返しました。一緒に遊んで、昼食をとって、午睡をして、主人と一緒に入浴をし、そこで名誉挽回したような感じです。

日帰り交流を数回やった後、今度は自宅に連れて帰りました。初日は、はじめて

の車に酔い、途中から歩いて帰りました。自宅で、私の母と、犬2匹と初対面をし「ワンワン怖い。」というので犬を他の部屋に移すと今度は「ワンワンいない」という状態でした。外泊が始まると、彼も自分の気に入らないことがあると大の字になり手足をバタバタさせ、顔を真っ赤にして泣くこともありました。保育士さんに相談すると、緊張するより自分の気持ちを出せる方が良く、試し行動の可能性もあるからと言われ、今は余り心配しないようにしています。

先週は動物園と新幹線乗り場に行きました。まだ小さいので動物はよく分からないようでしたが、上野公園前にたまたま停まっていたパトカーに興味を示し、突然後ろからパトカーを一生懸命押していました。動かないよと言っても押していて、子どものすることは予想外でとても可愛いねと主人と話し写真を撮りました。交流後、乳児院に送り、いつもはバイバイと言っても振り向かなかったのですが、今回初めて「僕も一緒に行く」と後を追って来て、嬉しい反面、後ろ髪を引かれる思いで帰りました。

今後外泊を増やし、私が仕事を辞めて12月になったら長期外泊をすることになります。主人も早く受託したいと言っており、家族として仲良く暮らせれば良いなあと考えております。今までの子どものいない生活から、きっと180度変わると思いますが地域の方にも理解していただくため、9月から主人が町会の役員も引き受けました。子どもを受託したら地域の皆さんに説明をし、周りの方々にもご協力をお願いして育てていければいいなと考えております。彼が大人になって、1度でも「あの2人の子どもになって良かったなあ。」と思ってくれればと、今はそれだけを楽しみにしております。中高生になった時のことを考えるととても心配ですが、当たって砕けろという心境です。私たちも養育家庭支援員さんや地域の皆さんにご相談をしながら、できる限りのことをして頑張っていきたいと思っておりますが、更にたくさんの方が里親になっていただければ良いと思っております。



## 4 「里親」という名前の親

### 【里母】

実子が5歳になったときに二人目の子どもを希望したのですが、なかなかできなくて、そんなときに里親制度を知りました。夫と私がこの里親になるということを決めるのに2年ほどかかりました。この2年間は、私の親、兄弟、周りの人に私たちの気持ちを理解してもらった期間であり、里親になってすぐ周りの協力が得られたので、今思えばそれも良かったのでは、と思っています。

Yちゃんは、2歳の終わりにわが家に来ました。Yちゃんについては、こと細かく日常生活の特徴などを書いた所見をいただきましたので、ここで読んでみたいと思います。

「入所当時、2～3日はお人形のようにされるままという感じだったが、以後、理由なき反抗という感じでわけのわからぬままぐずることが多く、集団生活からもはみ出していたが、最近は何かが減った。スムーズに流れに乗り切れない。自分が納得しないと、次の行動に移れない。頑固でわがままなので、自分の思うとおりに行かないと気に入らず、抵抗する。大人が無理に軌道に乗せようとするとなますます反抗するので、型にはめた育児・しつけではなく、大きな愛情を持って長い目で見守って指導をしてほしい」と書いてありました。

所見に書いてあるとおりに、かなり個性的で、自分の思うとおりにならないと次の行動になかなか移せない状態が続き、最初の1か月は夫の泣き言が出てしまうくらい愛情を与え続けました。とりあえず私はこの子の信頼を得たいと考えていたのですが、ある日、買い物に行ったときに「これが欲しい。これを買いたい」と、お人形さんをつかんで離さないということがありました。しつけという意味で「今日はお金がないから買えないの」と話しました。でも、いつものように「いやだ。買う。買う」ということで頑張っていて、握ったまま離しません。私も、そこで10分、15分と粘りました。そのうちに、人形をつかんだまま「トイレに行きたい。おしっこ」と言うが早いか、そこでおもらしをしてしまいました。私はその姿を見て、彼女の頑固に振る舞う気持ちよりもまずしつけをしようという自分に対して、なぜ頑固をやるのかをもっと彼女の心に沿って知るべきだったと初めて思うと同時に、濡れたパンツのまま人形を握っている彼女を見て涙が出てきました。私はそのときに初めて彼女に対して、心の中で「ごめんね」という気持ちが湧き上がり、もっとわかってあげなくてはいけないと思いました。

「欲しいよね。欲しいのを我慢するの、辛いよね」と私が声をかけた時に、わあっと抱きついてきたのを受け止めて「我慢しようね。ママも、我慢するのはたいへんなことよくわかるよ。でも我慢しようね」という会話をして家に帰りました。

それからは、本当に雪解けのようにスムーズな関係が築けました。その後Yちゃん

んは小さな反抗期はあったものの、かつて頑固な時期があったのかと思う程、特に大きな問題もなく育ち、現在は20歳になっています。彼女は幼稚園の先生になりたいと短大の保育科に進んで勉強しています。

それぞれに個性があっても、ある程度理解できるとコミュニケーションがとりやすくなり家庭生活もスムーズになりますが、中・高生ぐらいで急に変わってくることもありました。

Mちゃんの場合は非常に難しかったです。Mちゃんが高校入学してから2か月目、自宅謹慎第1号になってしまいました。その後、反省活動もしっかりこなして、謹慎も解除になり、元気に学校に行き始めたのをとても喜んでいたら、Mちゃんの様子も少し変わってきました。学校の帰りも非常に遅くなりました。制服のまま遊んで9時頃に帰ってくるという日が続きました。当然、彼女に注意します。そのときに、いつも決まって返ってくるのが、「学校が厳しい。こんなに学校が厳しいんだから、少し息抜きさせてくれ。息抜きしないとやっていけない」ということでした。しばらくしてから私は学校に呼び出されました。彼女は、学校の先生には「家が厳しい。だから少し息抜きしないとやってられないんだ」と話していたようです。

非常に難しい時期でもありますし、それと同時に彼女の中で自分のルーツというものについて心の中での葛藤が始まっていたのかなと、今になって思います。単なる反抗期かなと思っていました。「里親のくせに、親でもなくせに」と言われても、私は「親じゃないわよ。でも、親のつもりであなたを見ていて、親のつもりであなたを愛しているの。だから私には言う権利がある」と返していました。ある日、Mちゃんは「ママは私の気持ちをわからない！ 里子になったことないじゃない！ ママは私の気持ちをわからない！ 実の親に育てられているじゃない！」と言いました。その言葉の中に、大きな悲しみや苦しみ、いわれなき反抗など、彼女の中での、何か自分の中でも消化しきれないもののひとつの表現だったのかなと今は思っています。

そのMちゃんは結局高校を中途退学してしまいましたが、今はクロス職人の仕事を始めて、ちょうど半月くらいになります。先日、一週間分の給料をもらいケーキを買ってきてくれました。

いろいろなことがあります。順調な子もいますし、Mちゃんのように残念ながら志した高校も挫折してしまう子もいますが、一緒に暮らすということの中から生まれてくる感情で、その子を支えたり、応援してあげたらと思っています。

里親は里親なのですけれど、「里親」という名前の親というように私は考えています。わが家の日常は、どこにでもあるような毎日です。毎日の生活の中で、里子であるという多少の不便さも、やはり周りの人の愛情や、学校の先生や、それから何かあれば児童福祉司さんに応援していただきながら、ここまでやって来られたことをうれしく思っています。

## 5 魔女のいるほっとファミリー

### 【里母】

私が里親をしようと思ったきっかけは、児童館を通して地域の子どもたちと遊ぶようになり、子どもの抱えている悩みを知るようになったからでした。ある子は父子家庭で、お父さんが出張の時に、一人で過ごさなければなりません。食事の準備もなく、朝起きられず、遅刻して学校に行ったことをお父さんに知られると体罰をうけるという子。また、父母がパチンコばかりして、お腹がすいても食事の準備をしてもらえない子。また、別の子はお父さんが家にお給料をいれないため、お母さんはやりくりをして食事を作るのが億劫になってしまい、結局、子どもたちは給食が中心の一日最低一食という食生活を送っていることも知りました。その子は、よく「お腹がすいたよ」と言ってくるのですが、どの程度までその子たちに食べさせて家に帰したらいいのかと考えさせられました。そんなことから、何か私にできることはないかと思い、まず児童養護施設の手伝いをし、次にフレンドホームの登録をしました。そして、当時小4のRという女の子と出会い、週末ごとに交流を重ねるようになりました。

Rのフレンドホームとして3年ほど経った頃、当時、不登校などの問題があったRに、落ち着いた環境があれば何か変化があるのではないかと考え、家族と相談して養育家庭登録をしました。それから、Rもうちに來る決心をし、そのことについてRの担当の児童福祉司さんからRの実父へ話しに行っていました。しかし、Rの実父から承諾はとれず、Rが家にくる話はなくなりました。その後、Rは施設で荒れ、落ち着くまでに少し時間がかかったようでした。Rを里子として迎えることは出来ませんでした。今でも週末になると我が家に来ています。また他の子どもを里子として受け入れることについてどう思うかとRにも相談したら、Rは私がやることなら応援するといってくれました。

それから2年ほど経った平成18年の8月頃、一時保護所で預かれていた、小2の男の子のYを紹介されました。お母さんの体調が悪く、今回で3度目の一時保護だったそうです。お母さんの体調がよくなり、Yと一緒に住むのが大丈夫になるまで我が家でお預かりということでした。児相からの話ではYは「ネグレクト」だと聞きましたが、Yの話ではお母さんが夜に仕事へ行くとき、6歳年下のまだ小さい弟の面倒をYが見なければならなかったようです。おむつをかえなかつたり、夜中にミルクをあげ忘れていたりすると、お母さんの男友だちにひどく叱られていたということを知りました。夜に赤ん坊の面倒を見ているので、朝は眠くて起きられず、学校にも行けず、休んでいたそうです。また、食事はできあいが多く、食べる時はお金がたくさんある時に食べていた、と話してくれました。このような食生活だったせいか、Yはうちに来てからほとんど私に「お腹がすいた」と言いません。「お腹がすかないの？」と聞くと、「わからない。食べられるとき食べればいいんだよ」と答えていました。Yと

の生活の中で、とにかく朝昼晩の食事を一緒にとり、素材の形、味を知ってもらいたいと思いました。そして、1つでも多く、おいしいと感じ、食べられるものがふえてくれればいいなと思っています。また、学校に行き、友だちを1人でも多くつくれるようにと願っています。Yの学校の先生から「机の中の整理ができない子ですね」とか、「忘れものが多い。」とか言われています。本当にそのとおりです。学校に筆箱を持っていっても、中身がそろっていなかったり、着ていった服も一度脱いでしまうと忘れてしまったり。でも、学校や私が望むような完璧な子がいたら気味が悪いです。完璧な大人もいませんので、少しずつやれるようになればいいかなと考えています。

次に一緒に住むようになった中学2年生のHは、児相からの話では「少し素行が悪く、問題のある子」との評判でしたが、会ってみると、ごく普通の男の子でした。Hは、とても明るく、人なつっこい子です。私が夕食の支度を始めると、よく手伝ってくれます。長男と次男はなぜか私より料理が上手で、Hはそれも手伝っているのです。料理が上手です。私は千切りをしているつもりでも、野菜炒めに使うような『百切り』になってしまっていることがよくあるのですが、まあ、毎回なのですが……。すると、Hが私の横に来て「あれ、そのキャベツ、何に使うんだっけ。トンカツの横につけるんだよね」とからかうのです。こんなふうにかかわれていると、なんだかHとはとても長く一緒にいたような気がします。

我が家には少し変わったところがあり、夫と私の名を「〇〇ちゃん」と個人名で子どもに呼んでもらっています。ほかの里親さんとは違って、小さいころから里子として一緒に住んでいるわけではなく、子どもたちも、本当のお母さんのことを知っています。そんなわけで、夫と私のことを個人の名前で呼んで暮らしているほうがいいのかと、今は考えています。YもHも我が家で、夫、長男、次男、うちに来る子どもたちに遊んでもらったり、叱られたりしているのを見て、「こんなふうにして人と人とのかかわりがつながって成長していくのだな。」と、つくづく感じます。決して、自分の子も里子も、自分だけでは育てることはできません。家族の協力、親戚、友人、地域の子どもや大人などといった多くの人を借りて成長していくのだと思います。でも、皆さんには悪いのですが、子どもたちからパワーと若さのエネルギーを私が一番もらっているのです。申し訳ないと感じています。子どもたちにも、「私は、あなたたちのエネルギーを吸って、若さと馬鹿さ？を保っているのよ」と言うものですから、みんなから「魔女だ」と言われています。

このように我が家に来ることになった里子たちは、今のところある程度の年齢になっている子だけなので、その子たちの人生のほんの一部だけしか一緒に過ごすことができません。しかし、心に傷を持った子どもたちが、少しでも信じられる大人がいることを知って、人を少し信じてみようかなと考えてくれたら幸いです。我が家を出て大きくなっても、思い出してくれたり、遊びに来て、食事したり泊まったりしてくれたらいいなと考えています。皆さんも、「私にできるかしら」と深く悩まないで、こんな私でも里親ができていますので、ぜひお勧めいたします。

## 6 フレンドホームから里親へ

### 【里母】

私は保育士を29年勤め、5年前に50歳の時に早期退職しました。今は児童養護施設で買い物や食事を作るパートをしています。私には実子が3人いるのですが、13年前、中学3年生だった子ども好きの次女の「うちに2歳くらいのかわいい子どもがいたらいいなあ」という言葉が里親になるきっかけでした。ちょうど東京都の広報にフレンドホーム募集の記事が載っており、申し込んでAちゃんを紹介されました。

それまでの家族の状況は、娘達も部活や友達付き合いで、親ともなかなか一緒に出かけないし、食事も時間がバラバラでした。それが、Aちゃんがくることで、家族一緒に夕飯を囲んだり、義父母も一緒に動物園へ行ったりと、家族の接着剤にもなってくれ、来るのが待ち遠しく、とても楽しい時間を過ごしました。

Aちゃんが5年生になった時、Aちゃんを家に迎えたいと里親登録をしたので「家においでよ」と誘いましたが、その時Aちゃんはパパを待つからと言って家には来ませんでした。パパとは中学生になったら一緒に暮らそうという約束をしていたのです。けれど中学生になってもパパとは一緒に暮らせませんでした。それでもAちゃんはパパを待つ気持ちが強くて、家には来ませんでした。Aちゃんが高校に入る時に再度誘いました。その時パパは連絡が取れない状態でした。「家に来たら娘達もいるし、ずっと姉妹同様に助け合っていけるし、私もAちゃんの子どもの面倒も手伝うわよ」というのが私の決め台詞でした。

小学校入学前からの付き合いなので、委託されてからもお互い遠慮もなく馴染んでくれました。携帯電話を購入するときに私は、「自分で払えるようになるまでは」と反対したのですが、夫が「買いにいくついでに買ってやる」と言って連れて行き、夫よりも高い携帯をゲットしてき、Aちゃんは「遠慮しているよ」と屈託がありません。

高校を辞めると言い出したり、警察に迎えに行くようなことがあったりしましたが、Aちゃんは現在、自立して生活しています。高校1年生の時に読んだ本がきっかけで、児童養護施設の保育士になりたいという夢に向かって勉強中です。学校が終わって夜中までバイトし、その他に奨学金をもらい、なんとか一人でアパートを借り頑張っています。バイトのやり過ぎと思うのですが、言っても止めないので、折々に「続けられなくなったら相談するのよ。お金はあげられないけれど、家に置くことはできるから」と言っています。

この間Aちゃんが家に来たときに「里親になってくださいって話をするから、Aも何か書いてよ」って言いましたら、さらさらと私の目の前で書いてくれました。書き終わって「涙が出るわ」と自分で言っていました。

『里親になってください。私は、高校生になると同時にOさんのところへ来まし

た。6歳くらいのときから何度も家に行ったり、いろいろなところへ連れて行ってもらっていたので、すぐに家の雰囲気にも慣れて、とても住みやすかったです。

私がホームを出たいと思った理由は、中学生の時には周りが、自分の生活が普通の生活ではないと流れで知っていてくれていたため、気にせずに学校に通っていましたが、高校生になると、周りの友だちが私の生活を知らないところから始まるので、どう思われるのかとても不安で仕方がなかったからです。その他にも、大勢で過ごしていることがすごく嫌で、「何でこんなところにいるんだろう」と思うことが多くなり、すぐにでも出たいと思っていました。そのときに、「家に来ない」と話をしてくれたのがOさんでした。その時はホームから出られると思い、すごく嬉しかったです。

いざOさんの家での生活が始まると、ホームとは全く違い自由でいられる。普通の家庭での食事の仕方、時間などを体感できて、自立に向けてたくさんのことを学びました。自由が多くなることに慣れてしまうと、帰宅の時間や友だちとの夜遊びなどが多くなり、Oさんたちにはとても!!! 迷惑をかけたと思っています。Oさんは基本、実の娘さんたちにも自由にすることを一番に、その中でも悪さなどするとしっかり怒ることなどは大切にします。その態度が私にとってもよかったと思っています。そこまで縛りつけるのではなく、心配していることを見せながら、態度に出しながらも、意外にその行動はとてもやりやすかったと思っています。

ホームの先生などにOさんの家でのことを話すと、「それはいいところに行ったよ」と皆がOさんの広い心に感心をしてくれて、逆に「A子、それはやり過ぎだよ」と必ず怒られます。私も身にしみてOさんたちにはとても感謝をしています。

6歳からの関わりと高校生活の3年間と長い環境を通してみると、はっきり言うてしまうとやはり、自分ではあと一押し踏み切れない感情もありますが、第2の家庭として考えたいと自分で勝手ながら思っています。お姉さん方、おばあちゃん、おじいちゃん、おじちゃんたちも私のことを思ってくれて、心配しているんだよとおばちゃんも話してくれます。

こんなに優しい方々に会えた私はとても幸せで、大切にしていきたい人たちです。このように、施設で育ってきた、元気そうに見えて、実はとても悲しい気持ちを持っている子たちの幸せの一つになってあげてください。私も保育科の短大に入り、将来は児童養護施設で職員として働きたいためがんばっています。この仕事は、自分にはできない仕事で私がしなくてはいけない仕事だと考えるからです。』

最後に、里親になって良かったことは、子どもも含めて「人ってすごいな」と尊敬できる多くの方と出会えたことと苦楽を共にする友達がたくさんできたことです。何もやらなければ問題は起こりませんが、いろいろあったからこそそれぞれの絆が深まったと思います。里親制度には、まだ不十分な面も見られますが、みんなで助け合い、仲間を広げ、楽しく里親活動をしていきたいと思っています。



## 7 我が家のほっとサマー

### 【里母】

私が養育家庭を始めた動機は、娘が言い出したことと東京都の広報で「ほっとファミリーが養育家庭の愛称に決まった」という記事を見たことで心が動いたからです。その朝すぐに都庁に電話しましたら児童相談所を紹介されたので面接の予約を取り付けました。昨年ここに体験発表を聞きに来ましたが、1年後発表のためここに座らせていただいていることに感謝しています。

私は団塊の世代ですが体力に恵まれ、子どもが好きなので保育園で保育補助をやっていました。姑を亡くしたことをきっかけに、自分も微力ながらお子さんの養育のお手伝いと言う形で社会参加が出来るのではないかと思うようになったのです。9年前に夫は亡くなりましたが、二人の娘のうち特に一方がとても積極的だったので申し込みを決断しました。

初めての里子ちゃんは、ママ（実母）が簡単な手術のためと言うことで3週間の予定でお預かりしました。そのS君は8月の最高気温を記録した日にやって参りました。3歳8か月で18.8キロと、とても体格の良い男の子です。わが家に来たあと、衣類整理しようと声をかけると布のパンツを持って「これ」と言って、部屋の隅で「ウンチ」と言うんです。これが最初の彼の自己紹介でした。

初日の夕食はカレーライスにコーンスープとサラダを出してみました。しかし結局食べたのはおにぎり3個とプチトマトにブドウだけだったのです。ママの話では食物アレルギーと好き嫌いはないということでしたが。何とか夕食を終えてその日の晩、「ママはいつ来るの？お迎え来るの？」とアピールしてきました。ここで曖昧にすると彼にとってもかわいそうと思い、カレンダーでここまではわが家の子になるんだよとしっかり説明することにしました。そうすると「ママ（あ）いたーい、ママ（あ）いたーい。」と彼独特の「あ」を抜いた言葉で泣き始めました。「そうだね、会いたいね、つらいね、ママ早く良くなるといいね。」とあやしながらS君の気持ちに共感してあげました。夜も興奮状態でなかなか寝てくれず、宮崎アニメのビデオ2本見ているうちに私のほうが居眠りする始末。それを見ていた娘たちが応援してくれましたが、このまま3週間もつのかなと心配でした。でもその後は夜泣きもなく10時くらいには寝てくれました。

S君とは毎日一緒に買い物に行きました。「何食べたい？」って聞くと、かごに入れてくるのはコロケ、チャーハン、焼き鳥、ギョウザ、カップラーメン、枝豆とみんな調理済みのものばかりだったのです。ある日新物のレンコンでキンピラを作って「S君、おにぎり一口食べたら、次はレンコンのキンピラね。」と言って最初は口に入れてあげたら、その後自分でどんぶりを引き寄せてフォークでパクパク食べ始めたのです。手作りの料理をやっと食べてくれたと私も大感激でした。バターたっぷりの

こんがりトーストは6枚切りを3枚、お餅も3個ぺろっと食べてお皿の砂糖醤油もペロペロと指でなめてしまう始末。またある朝、かつおぶしのフレッシュパックを指差して「猫のご飯が食べたい」と言う。わが家の17歳になる猫のムークンにいつもフレッシュパックをかけて上げているのを見ていたのですね。しかも自分でやるということです。その次の朝「かつおぶしご飯食べない」って言うので、理由を聞くと「かける時窓から風が吹いて飛んじゃうから」と言うのです。そこで「かける時だけ窓を閉めましょうね」と言ったら彼も納得してにこにこ美味しそうに食べていました。本当に食べっぷりが良いので、こちらまで幸せな気分になってもらいました。

S君は電車や働く自動車が大好きで、踏み切りの前や陸橋の上でキャッキョと歓声を上げながら動こうとしません。炎天下で私はへたりこんでしまうというのに。また解体工事現場ではショベルカーやユンボなどの大型工作機械を、工事の終わる5時まで猛暑の炎天下でも立ったままずっと見ています。私のほうがトイレを我慢するのが大変なぐらいです。公園でもどんぐりが落ちていれば、拾ったりどんぐりコロコロの歌を歌ったり、横断歩道では飛び出ししないように手をつなごうとルールを決めたりしながら、ちょっとしたプチ遠足になるのです。子供同士では大きいお子さんはちょっと苦手なようですが、ちっちゃい子が来るとスッと玩具を貸してあげたり、本当に気が優しくて力持ちなです。

また、S君は体験したことのない事柄にあうとすごい声で泣いたり大騒ぎします。シャワーは大丈夫なのに、お風呂の湯船に入っただけで大泣きします。また手に石鹸をつけた時は洗わせますが、タオルに石鹸をつけたときは嫌がります。これは最後まで駄目でした。

それからゲームセンターの前に差し掛かると「ブーブーもらえるから行こう」と言います。こんな小さい時から出入りさせたくないなと思っていましたが、こちらの気持ちを察してか、その後は言わなくなりました。人の気持ちをくめる子でした。

それから最初に紹介した、部屋の隅でウンチすることについて、そのたびに「これはママが大変、かわいそう」「トイレでポトンとしてお水をジャーとすればママも助かるのにね」と言って、大好きな水遊びの時に覚えさせようとしていました。お迎えの日が決まって4日程前に、気がついたら一人でぱっとトイレに行って「トイレでジャー、バイバイしてきた」と報告に来たのです。その時は娘と共に大喜びしました。しかし次の日に2回成功した後、どういうわけか残念ながら元に戻ってしまいました。

3週間がたち、ようやくわが家になじんで毎日楽しく過せるようになったころ、ママのところに帰る日がやってきて、25日間という短期の里親は終わりました。おにぎりを持って、夜ににこにこしながら眠たそうになったお顔は最高にかわいくて、私たちまで幸せな夢の世界に連れ込まれそうでしたが、S君が一番大好きなママのもとに帰っていきました。これからS君がまっすぐに大きく育てて欲しいと願っていますし、彼のことは一生忘れることがないでしょう。

こうして今年の私の本当に暑い夏が終わりました。

## 8 大きい男の子ばかりで

【里母】

今日は、自慢の「息子」と参りました。彼はうちに来るまでいろいろなところを転々としていたので、口癖はいつも「大人は誰も信用できない。」という言葉でした。初めは、まだ私たちにも心のゆとりがなく、ただただ一生懸命心配して疲れてしまい、彼の方は、やればやるほど、親切にすればするほど逃げていってしまうし、友達からも浮き上がっているみたいな感じでした。でも、こういう子こそ見なければいけないと思っていましたが、本当は辛く苦しい時も多くありました。

彼と出会ったのは9歳の時です。フレンドホームとして我が家に来たときはお利口さんのいい子かなと思いましたが、そのうち神経を逆なでするようになりました。今でこそ彼のおかげで肝っ玉母さんになったつもりでいますが、当時の私たちはもう見きれないと思ったし、彼も、こんな家よりもっと楽なところに行きたいと言い出しました。ちょっと厳しい施設に行きました。措置解除になって、私はこれでせいせいすると思ったのですが、逆に彼のことを本当にいとおしいと思う気持ちが湧いてきて、「あなたのことをほんのちょっとでも思っている人がいるんだよ」ということを伝えたくてはがきを書きました。彼からも、初めはいかにも不満そうな、定規で書いたみたいなすごい字で、『僕は元気ではありません。』って返事が来ました。はがきをやりとりしているうちに、だんだん何となく字が柔らかくなってきて、何かが行間にあらわれてきたような感じを受けたんです。その施設の教育が合っていたのかもしれないし、自分を隠さずいろいろなことを出せたので自信がついたのかな、良かったなと思えました。

ある時、彼が修学旅行のお土産を送ってきてくれたんです。今でも大事に持っていますが、ちょっと恥ずかしい文句ですが『いつもきれいなお母さん、頑張ってる。』と書いてありました。施設はうちから1時間半も離れているんですが、うちの近くの高校を受験したので、もしかしたら戻りたいというサインかなと思って、そのころうちはファミリーホームをしてちょうど1人空いたので、それで、これはもう絶対彼しかいないというのでもう一回引き受けました。一年間厳しい施設で暮らして、我が家に戻ったらムカつくオーラが消えていたんです。でも2、3日後にまたちょっとトラブルを起こし、一瞬私は自信を失いかけたのですが、何とか頑張ってる逆に結びつきが強まりました。

うちは延べ10人の子どもを見ましたが、一番ど派手なことをするのがこの子で、何かするたびに振り回されて大変でしたが、その度に近づいていくという感じがしました。学校に呼び出されて、先生方を前に「彼はいい子になったんです。本当はいい子なんです。私に心を開いてくれたんです。」って、それだけしか言えずあとは馬鹿



みたいに泣いたこともありました。あれほど嫌だと思った彼のために泣けるようになった自分を嬉しく思いました。

彼はジェットコースターの人生だと、私はよく言っています。何かあってトコトコトコって上がって良くなったねという、パーッと下がっちゃうんです。だから学校でもいろいろありました。自転車泥棒なんかもしましたが、小中学校の頃、根暗で1人でいつも違う世界にいた彼が、高校では、友達と一緒にいるので軽いノリでやっていたというのを聞いて、何て進歩したんだろうと思いました。他にもいろんなことがありましたが、今はとにかく頑張っただけで自力で暮らしております。

ほかに、今高3の子で『若様』というあだ名の子がいます。何で若様かという、ずっとお母さんに虐待されていて、とにかく目立たないように、何もされないようにというので、自分のことを何にも表現しない、何にも知らない、友達ともつき合わない、家庭的なものも、家庭で当然教わるべきことも知らないという状態だったからです。彼が来たのは高2の2学期でした。最初は、めちゃくちゃな家庭からちょっとだけ別の養育家庭に行ったのですが、そこではすごくきめ細かく一生懸命やってくださったらしいのですが、里母さんがノイローゼになってしまったそうであちこちに来ました。

私が養育家庭を始めた頃は頭からはいっていきましたが、いろいろ経験して今はとにかく来たら受けとめる、一緒になってはらはらどきどきする、そういう中から何か伝わっていくもんだと思っています。そんな彼がこの前北海道旅行をしてきました。それをうちでは『若様の冒険』と言っておりますが、この子もだんだん男になってきたなあと思いました。

今はとにかく毎日毎日が修羅場ですが、でも養育家庭をやっていて良かったと思います。彼と一回別れた時にやめていたら、今は嫌な思い出しか残らなかったらうし、養育家庭を続けていなかったかもしれないと思います。

### 【元里子】

お母さんが言っていたのは、すべて認めざるを得ない事実ばかりなので、それはおいて、自分の話をさせていただきます。たしか2歳で母が先に天国に行っちゃって、おやじが、これは後で聞いた話なんですけど、部屋の障子をあげたら仏壇の前で酒を飲みながら『何で死んだんだよ、この野郎』みたいなことを言っていた記憶があります。そんなことがあって、父の兄のところに住まわせてもらっていたのですが、そこもだめで、次にまた児童養護施設に何年かいて、Aさんのところに行っただけで、今、お母さんが言ったとおり面倒をかけてしまいました。

Aさんのところに行ってから、児童自立支援施設というところにも入れられて、その先生に対して『改心したいんです。』みたいなことを言ったらしく、その生活になじんでいくんですが、その生活は本当に楽しかったです。そこを出てから、Aさんの家の近くの高校に通い、それでまた面倒を見てもらうのですが、いろいろあつ

て高校を首になってしまって、本当に自分は何もしてないと思うのですが、通信にはいるのにお母さんを本当に泣かせてしまったのを、今でもすみませんって思います。一応高校3年生まで行き、進学、就職という時に、これは自分の死んだ父の話ですが、高校を卒業してバイクか車の整備のほうにいて、その後、大工で飯を食べていたというのを聞いて、「ああそうなんだ。じゃあ俺にもできるかな。」と思ったこともあり、車やバイクが好きだったので整備士のほうを受験して、合格しました。

話は変わりますが、養育家庭、児童養護施設、自立支援施設、ファミリーホームで暮らした経験から、子どもにとって大切なのは何かなと思ったら、やっぱり親の愛情だと思います。Aさんのところに来ている子は高校生とか少し大きい子ばかりですが、思うのは、『若様』もそうだけど、タッパはあるくせに、何でこんなに子どもみたいなんだろうって感じています。笑うのも何かうめいているような感じです。そんな子でも、いろいろ連れ回すと笑えるようになるんで、それは本当に良かったと思います。ほかに、これは悪口になっちゃうんですけど、『でぶちゃん』と言われている子がいるんですけど、やっぱりしゃべり方も、何でかわからないんですけど、自分が不利になったときは牛さんになっちゃうんです。「もう」って。本当は怒っているんだろうなと思うんですけど、今はそういうことが少なくなってきて、自分でいろいろ話ができるようになりました。また別の高校3年生は、一番の期待の星です。ちょっと障害を持っている子で、その子も親といろいろあったようですが、お母さんがつくってくれた弁当を持っていて、一緒に働いているセンター長や社員の方に見せて、「ご飯をつくってもらったんですよ。」と言ったことがあったそうです。その話を聞いて、いつもある特定の人にすごく感謝していたり、いろいろな意味を感じてるんだなということが分って、当時の自分と比較すると、「ああ、こいつすごいな。」って思いました。めちゃくちゃな話になってしまいましたが、これで終わります。



## 9 エプロンから生まれた里子たち

### 【里母】

私たち夫婦は結婚して13年間子どもに恵まれませんでした。その間、他県で短期里親を7年間経験し、その後、実子を授かりましたが、昨年9月に、現在小学校5年生と4年生の姉と弟のほっとファミリーとなりました。

私は実は縁という言葉が好きでよく使います。夫婦が結婚することも縁だと思えますし、養育家庭として里子に出会うことも縁だと思っております。実子に恵まれたこと、それも縁ではないかと思っております。

里子たちは、私たち夫婦のことを「ママッチ、パパッチ」と呼んでいます。はじめフレンドホームからの出発でしたので、当時小学3年生の娘に相談したところ、娘は私たちのことを「お父さん、お母さん」と呼んでおりましたので、同じ呼び方を里子がするというに少し抵抗を示し、自分が使ったことがない「パパ、ママ」にも首を縦には振ってくれませんでした。「じゃ、ちょっと遊びっぽいけれども、パパッチとかママッチは？」と聞いたら、「ああ、それいいね」と決定しました。娘の微妙な子ども心に少し配慮が必要かなと思いがながらのスタートでした。

子どもたちがうちに来た時に意識して伝えた話があります。「パパッチにはお父さんとお母さんがいます。ママッチにもお父さんとお母さんがいます。お姉ちゃんのお父さんとお母さんはここにいますね。この3人はとても仲のいい家族だけれど、よく考えてみて、お父さんとお母さんはだれも同じ人ではありません。二人も今は姉弟でとても仲よしだけれど、いつかそれぞれ別のお父さんとお母さんから産まれた人と結婚をして家族になるんだよ」と伝え、「今日から二人も私たちの家族になるんだよ、仲よくしていこうね」と言うと、「うん」とうなづいてくれました。

生活が始まり、初めて子どもたちを里親サロンに連れていったときに、ある里母さんが、「うちの子『ママのおなかから産まれてきたかった』と言うんです」とおっしゃいました。それを小耳にはさんだ姉が、帰宅してから、「私もママッチのおなかから産まれてきたかったなあ」と、ポツリと言いました。私は発作的に、「おいで」と言って、エプロンの中に二人を入れて、「好きなだけこうしていなさい」と、しばらくギュッと抱きしめておりました。それ以来、子どもたちは、「私たちはママッチのエプロンから産まれたんだよね」と言うようになり、私も「うん、そうだよ、私たちカンガルー親子だもんね」と、あいづちをうっております。



また、もともと娘とは仲のいい親子であったつもりですが、里子を迎えたことで今まで以上に家族として大切な時間を過ごそうとより意識するようになりました。言いかえれば、里子二人を迎え入れたからこそ、より家族らしく生活ができているのかも

しれないと感じています。

養育家庭の申し込みをする際に、一人っ子の娘に相談をしたところ「あの子たちはうちで暮らすのが一番いいと思うよ」と申しました。でも、娘は自分の気持ちよりも相手の気持ちを優先させる傾向がある子どもでしたので、我慢させてはいけないと思い、少し様子を見ておりました。すると娘が「もう、返事をしたの？」と聞いてきましたので「まだだけど、子どもが3人になるということは、好きなものも、欲しいものも3分の1になるかもしれないということなのよ」と言うと「そんなこと心配していたの、大丈夫よ」と娘が答えました。キーパーソンとなる娘がこのような反応をしたのを確認でき、これなら始めてもいいかもしれないと思い、養育家庭の申し込みをいたしました。

今回体験発表会でお話するにあたり、娘に「生活が始まった初めの頃どう思った？」と聞きましたら、「写メールを撮って、友達に『新しい家族ができたよ、私の弟と妹だよ、かわいいでしょう、かわいいでしょう。』と見せたら、親馬鹿じゃなく姉馬鹿だと、みんなに言われたよ」と笑っていました。今は中学3年生になり、社会的なことにも関心を持つ年頃であります。二人の将来のことを少し心配しているというようなことも申しておりました。娘は2人の里子の姉になっただけではなくて、2人を通して自分自身も成長しているということに気がついているようでした。多分お父さんから受け継いだ優しさと、わずかな人生経験の中から自分できちんとそしゃくして、そのような考えに至っているのだと思います。娘の成長、これも養育家庭になったことの効果といえますか、大きなものを感じております。

最後に、5年生の姉が担任の先生との交換日記で私たちの長女のことを紹介した文章があります。それは先生と子どもとの秘密のやりとりなので本来親が見る内容ではないのですが、養育家庭であるということで特別に先生から個人面談のときに見せていただきました。原文のまま紹介させていただきます。

『私のお姉ちゃんを紹介します。お姉ちゃんは中学3年生です。私たちがこの家に来れたのはお姉ちゃんのおかげです。なぜかというと、お姉ちゃんが反対したら私と弟はこの家に来れなかったからです。お姉ちゃんは自分の洋服より私たちの洋服をいっぱい買ってくれます。それと、お母さんにしかられたとき、謝り方を教えてくれたりします。私と4つしか年上でないのに、まるでお母さんみたいです。だから、うちにはお母さんが2人いるみたいです。私はお姉ちゃんが大好きです。』

私はこの文章をこっそり宝物にしております。

## 10 大切な子

### 【里母】

私が里親になった動機は、実子に恵まれなかったというのが一番の大きなきっかけです。私は幼児教育に携わっていたので、誰の子でも違和感なく育てられるかなと思いきや、本当に軽い気持ちで主人に相談しました。主人は余り子ども好きではなかったのですが、何とかなるからと言って登録し、研修を受けました。

初めてNちゃんに会った時は、大きなエプロンをつけてちょこちょこ動き回り、絶対こちらには近寄らないぞというような感じで、施設の職員の後ろの方からちらちら見ているだけで、名前を呼んでも下を向いたり、横を向いたりしていました。受け入れに時間がかかるのかなと思いきや、その日は終わりました。大体2週間ぐらい経ってから「おじちゃん、おばちゃん」と言ってくれるようになりました。それだけでも進歩したと思っていたら、そのうち「Nちゃんのおじちゃん、Nちゃんのおばちゃんだから近寄らないで」と施設職員に言ったりしているのを見て、良かった良かったという感じでした。3歳でしたが、とにかく人見知り、場所見知りがひどく激しい子で、交流期間に3人で外出をしたのですが、その時も絶対に主人の腕から下におりようとせず、「下におりてトイレ行こうね」と言っても、嫌だ嫌だと抵抗しました。いろいろなものが怖かったのでしょう。Nちゃんを2人で交互に抱っこして、「かわいいね」なんて言いながら歩いていたのを思い出します。

3カ月ぐらい経ったあたりから、やっとパパ、ママと呼んでくれるようになり、長期外泊も楽しみにしてくれたりとか何とか問題もなく過ごしました。それから、だんだんと自分を出すようになり、頑固な面も現れました。Nちゃんが我が家に来てまもなくの頃、お風呂に一緒に入ったとき急に泣き出し、お風呂場の隅でわーわー泣いて身体を触らせないことがありました。なだめても聞き入れず、このまま泣かせてたら、マンション中に響くだろうし、虐待と思われたら嫌なので泣かせたまま身体を洗い、パジャマを着せ、布団まで運んでとんとんしてたらやっと落ち着きました。どうしたのと聞いたら、「頭から洗いたかったのにママが勝手に身体から洗ったから泣いた」と言うので、それからは今日はどっちから洗うのというふうに確認するようになりました。

そんなNちゃんも現在は幼稚園の年長さんになり、この時期に真実告知をしようと心に決めていたのですが、このNちゃんというのは本当にしっかり者で、施設での出来事も全部覚えているのです。「あそこは新しいパパとママを待つところなんだよね」と話してくれたり、どこで知ったのか「私はママとパパから生まれていないんだよね」と言うのです。びっくりしましたが、「そうだね」とだけ返事をしています。

先日、ふっと「死んだら赤ちゃんからやり直すんだよね」と聞くので、「そうだね」と答えたら、「Nは、今度こそママからやり直すから」と言ってきました。ちょっとじーんとしたのですが、自分なりに自分の生き立ちを考える年齢になったんだな



と、ちょっとかわいそうになってしまいました。来年から小学生になるのですが、大人になって困らないようにと私もしつけにはとても厳しくして、ついつい泣かせてしまうこともあります。でも、やっぱり3年前に出会った頃を思い出せばとても成長しているし、皆さんも頭のいい子とすごく褒めてくださるので、そんな泣かせるようなことはよくないなとやっと最近になって思えるようになりました。本当に子供というのは親の私物ではないと言うことを常に忘れないように心がけようと思っています。

子どもを預かって良かったことは本当にたくさんあります。女の子はおしゃれができるので、髪型も2人で「今日は三つ編みにしようね」、「ちょっとシフォンにしちゃおうか」と、髪の毛にウェーブを掛けたりなど、2人で組んでしまって主人にはかわいそうだなと思うのですが、今は私の片腕となっていていろいろとお手伝いをしてくれます。本当に助かっています。主人がちょっとわがまま勝手なことを言うと、一緒になって攻撃してくれたり、逆に私が怒り過ぎると、ちょっと私と主人を離れた方がいいなと子ども心に思うんでしょうね。「ママは疲れているから私と遊ぼう」と手を引っ張ってほかの部屋に連れて行ってくれたりと、とても気のきく子です。とにかく3年前から今でも頑固さは全然変わらないのですが、自分の意思を6歳で貫くということはむしろすばらしいことだと思っています。ただ、小学校に入ってからはいじめなども心配なので、少し柔軟な心も必要になるのではと、そこが少し心配な部分ではあります。

逆に、その頑固さゆえなのか自分のペースをととても大切にする子で、何でもスローテンポ。絵を描くのも時間をかけ、すごく細かく描いています。でも小学生になれば環境も変わるし、今は、そんなNちゃんを暖かく見守っています。Nちゃんの成長とともに子供を通じてママ同士も友達がふえていくんだらうなというのもすごく楽しみにしています。

これからも私は、いろいろな体験をしていくと思います。本日お話をさせていただき、自分自身の子育てを振り返るいい機会になりました。実は本当の自分の子供のよう生活しているの、里親と言われると、「里親なんだ私。自分の子ではないんだ」と思ってしまうぐらい普通の親子です。大切に育てていきたいと思っています。



## 11 普通がしあわせ

### 【里母】

私は、里親歴1年3カ月の新米里親です。実子がいてもいなくてもいつか里子を引き受けようと夫と話をしていましたが、息子が2歳になった折に夫と真剣に話し合った結果、養育家庭の申請をしました。

登録して2年後の昨年8月、3歳の女の子の紹介がありました。就学前に実母さんに返すという条件でした。短期間ですがお引き受けすることにしました。夫とお子さんに会いに行くと、先生に抱っこされ、こちらをちらっと見ます。目のパッチリした愛くるしい女の子でした。夫と息子の表情からきつとうまくいくと直感しました。

順調に交流を重ね、長期外泊になるときは緊張と不安を胸に夫、息子とでお迎えに行きました。バス、電車、モノレールと乗り継いでの長旅でしたが、息子とはしゃぎながら我が家へ到着しました。おやつの後居眠りを始めたので、そうっと抱き上げて布団に寝かせようとする、ぱっと起きて正座しました。じっと1点を見たその目からは涙があふれ出ていました。声も上げず、たった3歳の女の子が必死にこらえている様子に胸が締めつけられる思いでした。夜も、同じように悲しい顔をしています。相当疲れているはずなのに横になりません。安心させ、やっと私の膝の上で眠りましたが、30分もするとまた泣き出します。これを朝までに四、五回繰り返しました。

2日目の晩は声を出して泣き、やがて絶叫に変わります。ありったけの声で不満を表現しているようです。「お母さんのママ、いないから！」実のお母さんのことでしょう。夜中に何回も、そして何日も…。このとき私は誓いました。Aちゃんを必ず「おめでとう、よかったね」と言ってお母さんに返すことを、そして時々お母さんの話題を出すことを。だからお母さん、必ず迎えに来てくださいねと祈ったのです。

また、親しいお母さん方をお招きし、養育家庭制度とAちゃんの紹介などして協力をお願いしたところ、皆さんはすんなり理解を示してくださいました。

1か月经った頃には背中をトントンすると安心して眠るようになりました。そんなころ、実母との面会がありました。行くときは嬉しそうにスキップしていましたが、お迎えのときはやっぱり暗い表情で、我慢しているのがよくわかります。その晩、夜泣きが始まりました。今度はしくしく泣きですが、はっきり「ママ、いない、ママ、いない」と言っています。「Aちゃんは1人でお留守番できないでしょう。今はここでパパとママとお兄ちゃんと暮らそうね、また、お母さんに会えるよ。」と言っても「うん」とうなずくものの、また泣き出します。夜中に何回も。この夜泣き、何日続いたか覚えていません。でもAちゃんはとても明るい子です。歌が好きですぐに覚え、仲良しのお友達もできました。食事もよく食べ、嫌いなものでも努力します。とても健康で、今までは鼻風邪ぐらいしか引いたことがありません。ノロウイルスで点滴しているお兄ちゃんの隣でビデオを見ていてもへっちゃらです。おむつもすぐに取りま

した。トイレでできたとき「上手にできたね」と抱きしめたのが良かったのでしょう。お兄ちゃんよりずっと育てやすい子です「ママ、いない！」の絶叫以外は…。

七五三のお参りには手作りのドレスを用意しました。すれ違う人が「まあ、かわいい」と声をかけてくれ、Aちゃんは有頂天でるるんです。お兄ちゃんも5歳の主役なのですが「Aちゃん、ドレス踏むなよ」などとエスコート役で満足の様子でした。

12月に実のお母さんとの面会がありました。その日の夕方、疲れた顔で重い足取りで帰ってきました。そして再び夜泣き。布団にうつ伏せ、オイオイ泣いています。「また必ず会えるよ」、それしか私には言葉が見つかりませんでした。

クリスマスにはプレゼントをもらい、お正月には私の実家で楽しく過ごしましたが、夜中の嗚咽はしばしば起こります。お兄ちゃんとのバトルでAちゃんに注意した時「ママ、来ない！誰も助けてくれない！」と泣きました。「ママって、どのママ？」と聞いてみたら「お兄ちゃんのパパだよ」と言います。Aちゃんにとって、ママとは100%自分の味方で、自分だけを愛してくれる人で、一生自分を放さない人のことであり、そういうママがいないと叫んでいるのだと感じられました。

子どもは親に、親は子どもに会う権利があるし、Aちゃんも必ずお母さんのもとに戻すという気持ちに変わりはありません。しかし、Aちゃんにとって母が2人いることはどうなのか、自分の立つ位置をどこに置いたらよいのか随分悩みました。ある日一緒に遊んでいた男の子に、Aちゃんが「うち、お父さんいるんだよ、お父さんいる？」と話していました。「うちにはママだけでなくパパもそしてお兄ちゃんも」と、きっとそう言いたかったに違いありません。里親としての立場もAちゃんから教えられたような気がします。普通の家庭で普通に暮らす、私も普通のお母さんでいいんだと気付いた瞬間、つま先立ちからかかとを下ろした時のように心が楽になりました。

Aちゃんの夢はいいお母さんになることです。家で洗濯物をたたむお手伝いをしてくれた時に「ありがとう、上手にできたね、いいお母さんになれるね」と言ってあげたのがうれしかったようです。今はまだ将来の見通しもはっきりしませんが、家族4人で楽しく平凡に暮らしていきたいと思っております。



## 12 一年の交流を経て

### 【里母】

私は5年前に体験発表を聞いて養育家庭制度があることを知りました。それから2年後、息子たちの就職と大学進学を機に家族で話し合って申請しました。

登録研修後しばらくして当時小2の兄と幼稚園年長の妹を紹介されました。児童相談所の同席のもと施設で面会し、公園に外出しました。2人とも最初からとても人懐っこく、その日から私達のことを「お父さん」「お母さん」と呼んでくれました。妹の就学に合わせて4月からお受けしたいと思っていたのですが、兄の転校への不安があるなどということで、施設の園長先生から「長い目で交流を持っていただきたい」というご希望がありました。その後は隔週週末に動物園や博物館に外出するという交流が始まり、5月の連休頃から金曜日の夕方から日曜日までのお泊り交流になりました。運動会でお弁当を一緒に食べたり、学校の授業参観や学芸会にも行きました。途中何回か話し合いをしながら交流期間が1年になった去年の4月、兄が4年生、妹が2年生の時に転校して、我が家に来ることになりました。現在ちょうど1年半が過ぎたところです。1年間の交流でお互いの性格なども分かり合えましたが、学校になじめるか、何でも話してくれるのかと心配は尽きませんでした。何よりも養育家庭ということでのトラブルが大変心配でした。私に小学生がいるとは見えないのに、子ども達は「お母さん」と大きな声で私のことを呼びます。すると周りの人がびっくりしたり、妹のお友達は「本当にお母さんなの？」と聞いてきたりしました。表札が2つなので「名字が違うじゃないか」と聞いてくる子もいましたが、本人達は全く気にせず「名字が違うこともあるんだよ」と言い、お友達も納得したような顔をしていました。今は「〇〇ちゃんのお母さん」と呼んでくれています。学校には養育家庭ということを知らせてありますが、他には話していません。でも特別それによるトラブルもありません。

子どもの施設は3歳から18歳までの8人の子どもと3人の先生が生活する1軒家で、それほど大所帯ではなかったのですが、養育家庭とは大きな違いがあります。兄妹の一方の帰りが遅いと「どうしたんだろうね。」と私達が玄関を出たり入ったりするのを見て「ああ、こんなに心配しているんだな。」ときっと感じていると思います。最初は喧嘩が多くて、妹を思いやるとかお兄ちゃんを尊敬するなんていうのは露とも見えませんでした。最近は大分兄妹らしくなってきたと思います。

色々なことを経験させてあげたいと思っています。お使いや銀行とか郵便局に行ったり、都電や都バスで降りる時にはブザーを押すことなど、施設では体験できなかったことなども覚えさせました。兄は主人とお風呂に入った時、髭を剃るのをじっと見ているそうですし、家族での旅行やボランティア活動やお墓参りも初めての経験だったでしょう。施設の食事は前の日の残り物はありえませんが、「2日目のカレー

が一番美味しいのよ」と教えてあげています。

5年生の兄は「今日誰ちゃんがこうした」とか「6年生の女の子にこう言われた」と私によくこぼしますが、2、3日して聞くと「ううん、なんでもない。あの時だけだった」と、聞いて貰うことで安心しているようです。そういう兄に比べ3年生の妹はおおらかで男まさり、忘れ物大得意、大雑把、片付け下手、勉強嫌いで、少々のことには動じません。宿題も「分かんない」、「私馬鹿だから」と投げやりでした。多分宿題を見て貰いながらやるという習慣がなかったのかなと思います。我が家では必ず私が見ている食卓で勉強させます。最初は少々鬱陶しいようでしたが、今は観念したのか自ら宿題を広げ、分からないところは聞きにきて、終わった時には誇らしげにしています。また友達から「明日の宿題何?」とか「持ち物何?」なんて電話があるのを見ると、この子も友達に頼りにされているんだと思い嬉しくなります。体を動かすことも大好きで一輪車と竹馬が得意です。竹馬はジャングルジムの高さ、一輪車大会では銀メダルをいただきました。私たちは女の子を育てるは初めてで洋服選びが楽しみでしたが、スカートは一切履かない、ピンク嫌いとちょっと期待外れでした。それでも女の子らしくして欲しいと時には注意することもあります。それから嘘をついたり、知ったかぶりすることがあって時々私と衝突します。たとえ反抗期であっても教えるべき時には、分かる言葉で一つ一つ丁寧に説明するようにしています。

この1年半で家庭というものを少しは分かって貰えたと思いますが、さらに家庭ならではの色々な体験をして欲しいと思っています。子どもたちが養育家庭に来る事情も違うし、里親側の価値観の違いと言うものもあります。我が家へ来た兄妹には少々古くさい教育方針の里親と諦めてもらうしかありませんが、今後問題が出てくる都度、真剣に向き合って、児童相談所や他の養育家庭の皆さんに相談しながらやっていきたいと考えています。そしてそういう我が家が子ども達の社会的自立への手助けになればいいなと思っています。やはり「人間、育つべき時期に、育つものが育つ」ということが、非常に大事なんだなということを痛感しています。



## 13 気がつけば4人の母親に

### 【里母】

私たち家族が養育家庭を始めるきっかけは、もう23年前になりますが、ちょうど第二子が生まれた直後に、夫が「これからの時代は子どもを育てたい人がいて、育ててもらえない子どもがいるなら、血縁関係にこだわらなくてもいいんじゃないか？」と私に持ちかけたのです。今のような養育家庭制度の広報活動はなかったし、私は一般的な家庭で育ってきたので、そういうことは思い浮かびませんでした。また周りの家庭で里親をしている人は全くいませんでした。里親として子どもを育てることは、外国の出来事で特別な家庭のように思っていたので、第二子が生まれたばかりの私には考える余地もなくお断りという感じでした。夫もそれ以来話をしませんでした。

ところが、私自身二人の子育てを通じて、子どもの発達や成長の素晴らしさを感じる一方、頭の片隅で「この東京の中には家庭で育ててもらえない子どもなんているのかしら」と、そのことが引っかかっていたのです。ある時福祉事務所で尋ねてみると、児童相談所の方が来ていて、そこで初めて養育家庭制度があることを知りました。

でも多分、里親になるための基準は高く、到底無理だろうと思ったのです。ところが収入は生活保護世帯でないこと、部屋は2室10畳以上あることが主な要件であることを知って、「あら？」というのが最初の印象でした。でもそんな偶発的な形で登録してしまって良いのかという迷いもあり、実際に実子がいる2軒の里親さん宅に家族揃って話を聞きに行きました。

一方のご家庭は、社会的養護の大切さとか、子供が変わっていく様子とかお話ししてくださいましたが、もう一方は養育家庭のリスクの大きさとか、様々な犠牲を払わなければならない大変さを、率直に話してくださいました。私はその方の話が印象深く、里親というのにはやはりある種の覚悟がなければできないのだなという風に考えました。

そんななかでもやはり里親への思いは消えず、しばらく経って家族に話したところ、夫の両親からも私の両親からも「辞めたほうがいいのではないか」という言葉は聞かれず、登録に踏み切りました。上の子が小1、下の子が4歳の時でした。

登録してから6か月目に「1歳の男の子がいます」と紹介がありました。夫も私も紹介された子は自分たちのところに来るべくして来る子なんだろう、という話をしていたので、もらった写真を壁に貼って「この子だよ」と言いながら、面会の日を待ちました。都内の大きな100人ぐらい子どものいる乳児院で初めて会ったのですが、とても手足が細くて、表情の乏しい赤ちゃんでした。毎日面会を重ねて、やっと我が家に来たような次第です。

2番目の子どもは、乳児院から養護施設に行かせるより、ぜひ家庭に行かせたいと職員の方が思われて、話がきました。でも、私は自分の人生で4人の子どもの親に

なるとは思っていなかったのですが、少し不謹慎ですが、「え、4人の子持ちになるの？」と思いました。夫は「大丈夫だよ」という反応で、半信半疑のまま第二步目を踏み出す形で面会に行きました。

里子について、同じように印象深かったことを1つお話します。子どもは1歳ぐらいの乳児でも気の合った子ども同士3~4人で遊ぶんですね。私たちが子どもの面会に行くと、残りの子が木のサークルのところにしがみついて、じっと見ているのです。その時、「あの子たちにもどこかに家庭があったら」と真っ先に思いました。2番目の子どもの時も、やはり同じ月齢の仲の良いグループで遊んでいました。彼は私たちが会いに行くと、すぐに寄ってくるのです。すると他のお子さんも一緒に寄ってきて、スカートを引っ張って「おばちゃん」という顔で見上げるのです。やはりその時も、無理とはわかりつつも、他の子も一緒に連れて帰りたいような心境でした。

大変だったのは子どもが思春期の頃でした。思春期というのは多分、実の子でも「もう嫌だ」と思うときがあると思います。それは里子も一緒に、いろんな問題が出てきて、それをクリアするのはとても大変です。でももしそれが出ていなければもっと大変なことになったと、逆に思うのです。ですから乗り越え方は色々あると思いますが、その踏ん張りどころみたいなものは誰しも共通するので、自分たちで抱え込まずに何とか乗り越えていけたら良いのではないかと考えています。

### 【元里子】

現在埼玉県で7人家族、4人兄弟の末っ子として里親宅で一緒に暮らしてしています。僕が里親宅に来たのは、2歳半の頃でした。あまり記憶が無いのですが、バレンタインの頃に来たようです。現在は姉や兄とケンカしながらも仲良く暮らしています。

僕は運良くこの家の一員になれました。「運良く」と言ったのは、東京の施設に約3,700人の子どもがいる中、養育家庭にいるのはたった350人だけだからです。

僕は現在大学生ですが、最近考えさせられたことを一つお話します。それは名前についてです。先ほど本名で紹介してもらいましたが、高校生まで里親さんの苗字、つまり通称名を使っていました。大学というのは外国人など色々な人が通っているの、通称名では混乱が生じるといわれ、半強制的に本名を使わなくてはいけなくなりました。入学までに何度も苗字のことを考えましたが、僕自身は通称名で大学もずっと過ごしたいと思っていました。理由はいくつかあります。長年使用してきた名前に愛着もありますし、何より育ててもらった里親に悪いなと思うからです。でも大学からの要請で、今ではアルバイトの履歴書も本名を使っています。

ところで思春期の頃ですが、僕は中学から越境して通っていたので、友だちも居ない、転校生みたいな感じで、中学2年の夏ぐらいから悪いグループに目をつけられ、いじめられていました。

いじめの内容はシカト（無視）されたり、トイレに連れ込まれて殴られたりと、

非常に辛い時期もありました。そんな時に助けてくれたのは里親である両親でした。泣いて「いじめられている」と、伝えた時に真剣に里父と里母が話を聞いてくれて、怒ってくれて、学校の先生とも色々話し合いをしてくれて、いじめられなくなりました。それと里親のサポートだけでなく、力になったのが英語でした。僕は小さい頃から英語を習っていて、英語のスピーチコンテストで優勝し、文化祭でみんなの前でやったところ、いじめていた子が「こいつすごいな」と思ったのか、いじめがなくなりました。今では彼らと「よう」「元気」と普通に遊んで、仲良くしています。

ところで、僕が養育家庭制度の中で育って気がついたことですが、普通に育っていけるというのは「普通には存在しない」ということです。僕のいう普通というのは僕が暮しているような家のことです。みんなで食事をしたり、テレビを見たり、休日に親とキャッチボールをしたり、色々な人が家に遊びに来る、そんな家庭です。実は高校の頃の親友の家に一度も遊びに行っただけがないのです。僕が遊びに行きたいといっても「今日は汚いから」と言い訳をするのです。親友でさえ、血のつながっていない他人を家の中に入れて、食事を一緒にしたりするのは難しいのだと思います。

それから、里親になりたいと思っている方に僕からお願いが一つあります。それは里子の夢を温かく見守って欲しいということです。僕には夢があって、ラジオのパーソナリティになりたいと思っており、サークルもアナウンス研究会に所属して、日々アナウンスの研究をしています。アルバイトも埼玉の、あるラジオ局でアシスタントの仕事をしています。夢に一步でも近づけたらと思いながらバイトをしています。そんな風に自分の夢に向かっていけるのも、自分の力ではなく、やはり里父母が後ろからそっと手を添えてくれているからだだと思います。

夢を持ったきっかけは、受験勉強をしていた時に、母が聞いていたFMラジオの元気な声に励まされたことがあったからです。でもパーソナリティの仕事内容を知ることにつれ、自分は何もできないんじゃないか、あきらめた方がいいんじゃないか、と思うことが何度もありました。でもそれを支えてくれたのも兄弟であり、里父母でした。

高校2年の頃に、今働いているラジオ局で高校生の作る番組があり、DJとして出演しました。その時、先生にアナウンスの技術を教わったりしましたが、その先生が厳しい人で、怒鳴られたり「帰れ」と言われたりしました。そんなときに、母はいつものように接して「あまり頑張りすぎないでね」と温かい目で見守ってくれました。

両親がいつも「お前の自由でいいよ」と僕の夢を制限しないで、のびのびと好きにやらせてくれるので、こういう風に夢を持ち続けていられるんだと感じています。



## 14 人生二度楽しんでます！

【里母】

昨年、長年の夢だった里親になるために30年勤めた保育園を退職しました。

私が育った場所は貧しい生活をしてきた人がたくさんいる所で、食べ物や衣服に困り、ある時にはムシロに包まれている男の子がいたのを今でも忘れません。子ども心に何もしてあげられなかった自分の無力さを非常に感じていました。こういう小さい時の見たことや感じたことというのは生涯忘れないもので、幼児期というのは本当に大事なんだなということを感じておりました。

保育短大の時に乳児院と児童養護施設で実習をしました。そこで甘えたくても甘えられない、順番でしか抱っこしてもらえない子どもたちがいるのを見て、卒業後は施設で働きたいと思っていましたが、家庭の事情で住み込みの仕事は無理でした。その時、児童養護施設の施設長さんが「この仕事は家庭を持って自分の子育てが終わってからでもできるんだよ」と教えてくださいました。この時に里親という制度を知り、それ以来30年間ずっと私の心の中で温めてきました。

保育園に就職し、日々、子どもたちの元気な笑顔を見る度に、家庭に恵まれない子どもたちのことが脳裏をよぎっていました。やはり、体力が残っている間に里親をやりたいと思い、2年早く退職を決心し、半年後に養育家庭に申請しました。申請書類に申し込みの動機記入欄があり、主人の方を見たら「妻の長年の夢を叶えてあげたい」とあり、それにはとても感動して不安な思いも払拭されました。

最初に預かったのは2歳半と4歳半の兄弟で、3か月間預かりました。慣れるまでは保育園を休ませ、午前中、主人が2時間ほど外に連れ出してくれました。最初の頃、すり傷を作って帰ってきたことがありました。それがあってからは消毒の薬とタオルを必ず持たせて、とにかく子どもの傍にいてケガをさせないようにお願いしました。その時主人は「保育園の先生ってやっぱり大変だね」と言っていました。主人たちが外に行っている間に私は家事をすることができるので、自然に役割分担と生活リズムができました。ちなみに主人は15時半から深夜1時までの夜勤をしています。

この時の兄のTは、大人の言ったことや行動を非常によく見ていて、自分が不安で嫌な思いをしたことや家でのことを詳しく話してくれ、子どもの生活が見えるようでした。この年齢で自分の気持ちを言葉に出して言えることは凄いことで、大人並みの表現をするお子さんでした。たまたまりんごがたくさんあってそれを毎食後に出してあげると「おばちゃん、丸ごとでも食べれるよ」といって丸ごとかじっていました。食べ終わったあと、「僕、幸せだなあ」と言うんですね。そういう言葉を聞くとすべての疲れがすっ飛んでしまい、本当に私たちも幸せな気分になっていました。

3か月たって家庭引き取りが近くなった頃「おばちゃん、僕ね、ここ気に入ったよ。もっとずっと居てもいいよ。ねえ、お母さんも一緒に住んだらいいのにね」と言って

ました。弟のRは、心の安定が見えて笑顔も言葉も出始めていましたので元の生活に戻ることに少々心配になりましたが、それ以上は私には何もできません。今では、当時大変だったことも「あの子は面白かったよね」とか「下の子はこうだったよね」とか「今、どうしているかねえ」と思い出されます。

その後すぐに二度目のお話がありました。4歳半の男の子と3歳の女の子です。今回は緊急で家庭から直接来たので一日目は泣き崩れていました。兄妹だったこともありよく二人で遊んでいたのが1か月したらだいぶ慣れてきたと感じられたのですが、子どもたちは私たちを受け入れていなかったということが後になって分かりました。

私は楽しみながらもほどほどに手を抜くのは得意で、ちょっと時間があると昼寝したりして、育児疲れは感じていなかったのですが、それでも2か月に一回くらい熱を出すようになりました。その時は「今日は無理だからお父さんお願い」って仕事を休んでもらいました。私も30年外で勤めていましたが、こんなことは一度もなかったし、主人は会社で「奥さんが病気だからと休むんですか？」と言われたそうです。主人には夕食からお風呂に入れて寝かしつけまでやってもらって、私はひたすら部屋に閉じこもって寝続けます。そうすると次の日はすっきりと良くなりました。

家族は言葉に出さなくても子どもは気付いて、たまに出かける時におしゃれをしている姿を見て「おばちゃん、ちょっときれい」とか「おばちゃん、髪切った？」とか言葉に出してくれるので、私もいい気分になったりします。子どもが居ると毎日が刺激的で変化があって、人生を二度楽しんでいる感じがします。私は決してボランティア精神とかよりも転職という形で里親をやっていると思っています。それで助かるお子さんがいるのであれば、いつでも声をかけていただきたいと思います。

この9月から中3の女の子が家族に増えました。私は内心大丈夫かなと思いましたが、主人の二つ返事で受け入れることにしました。

夕食は息子と里子3人と私と5人揃って食べます。こんな時我が家は明るく生き生きして昔がなつかしく感じられ、とても満足しています。一方、今度来た中学生がしっかりしていて、子どもから教えられることも多く、自分の子どもの頃と比べては自己嫌悪に陥ったりもします。ですからこの仕事は子どもがどれだけ成長するかだけではなく、私自身も育てられているのだと感じます。家族もそうですね。大人ばかりの生活だと思いやりの気持ちや言葉がなくなりますが、それが締まるようになりました。今まで黙って仕事に出ていた息子が、子どもたちの「お兄ちゃん、行ってらっしゃい」に、思わず「行ってきまーす」と返事するようになったし、夜勤の主人も通園のために車を朝から出してくれたり、ごみ捨てを積極的にしてくれたり、良く動くようになってくれました。子どもも私たちも、お互いに必要とされていると感じました。これが本当の意味での『共生』ということなのかなと思っています。

## 15 里親をライフワークとして

### 【里母】

里親を始めたのは8年前です。里親を始めた動機は、地域の福祉まつりで児童養護施設のフレンドホーム制度のご案内をいただいたからです。ちょうどその夏に、東京都の交流事業で北海道のお子さんたちをホストファミリーとしてお迎えしたので、その感覚で「楽しそうじゃない。」と思って説明を聞き、話を聞いているうちに、養育家庭に登録することになりました。

子どもはかわいい宇宙人です。ほかに頼る人間がいませんから「おばちゃん、おばちゃん。」と言って私を慕ってくれます。預かる期間は1日から1年3か月まででしたが、お子さんたちは私のことを「おばちゃん」とか「Kさん」とか呼び、「お母さん」と呼ばれたことはまだありません。ですが、いつも専属の大人がいるということが、子どもにとっては必要だと思います。

それで、宇宙人が2人来たところに戻りますが、宇宙人は、市内の5歳のお姉ちゃんと3歳の弟でした。秋に来て、クリスマス、お正月を我が家で過ごしました。うちに来て驚いたのは「え、おばちゃんちって、保育園みたいにみんなで『いただきます』するの?」とか、「うちはね、マックのハンバーガーをお姉ちゃんと半分にした」という話で、家庭での養育が充分ではなかったようでした。自他の洋服の区別がつかず、身綺麗でない等があり、他児との関係も悪かったため保育園は大嫌いでした。そこで、着衣を整え、髪の毛を洗ってリンスもしたら非常に喜びました。毎日三つ編をしてリボンをつけて保育園に出しました。すると、周りのお子さんたちの態度も変わって、手もつないでもらえるようになって、保育園の先生も「もう、すごいよ。」とおっしゃってくれました。お母さんが退院して、クリスマスのお食事会をお母さんと一緒にしました。そうしたら、お母さんが「うちの子がいすに座ってちゃんと御飯を食べている。」と泣き出しました。お見舞いに行ったときも、小ざっぱりした自分の子どもを見て「うちの子じゃないみたい。」と言って喜んでくれました。

そのほかにも4年生でハリー・ポッターを読む大変賢い子がいましたが、猫アレルギーがあり、結局預かれませんでした。現在は1年生の男の子と交流していますが、里親さん同士の月1回の交流会で、話を聞いて、長期間育ててみたいという希望を持っています。

最近では、地域の民生委員さんとか主任児童委員さんが把握しているお子さんのことで、直接うちに電話がかかってくることもあります。家庭から直で一時保護委託というのもあります。養育家庭からは学校に通えるので、各小学校区、中学校区に養育家庭が1、2家庭あると非常に便利です。担任の先生からの連絡で母親の治療期間中預かったことや、離婚した家庭のお父さんが住まいを移して、その保育園に通園できるまでの何か月間かというのもありました。更には、拒食症の母親の子どもを、お父

さんの引き取り準備ができるまでということで預かったこともあります。最近の祖母が意外と頼りにならないので、おせっかい焼きの他人のおばさんがちょっと面倒を見ると感じではありました。

うちに来る子たちは押しなべて成績が余り芳しくないのですが、うちに来ている間は宿題をちゃんとやらせて、教科書を読むのを毎日聞いて、九九の練習を見えています。宿題をやらせると、威張って学校に行きます。うちで預かる子たちは、全体に自尊意識が乏しいのですが、自尊意識を持たせてあげると、



学校に威張って行きます。「おれ、宿題やってるぜ」、「音読カードもばっちりだぜ」などと、見違えるようだと担任の先生からいつもお話をいただいています。

うちのおばあちゃんは、他界して3年半になります。里子の九九の練習台でした。おばあちゃんと里子とは良い関係で、ぼけ防止にもなり純粋に子どもと楽しんでいました。里子の方も大体核家族の子たちなので、おばあちゃんなんて余り接する機会がなく、結構おもしろがっていたようです。

私も50歳ですが、今までずっと地域のことをやっていたのですが、子どもが好きなのでこんなことやってます。

この辺で娘とかわりたいと思います。

### 【実子】

私から見た里子というのは、片親に育てられたりして余り手をかけてもらえなかったということなのか、普通の子ができることができなかつたり、臆病だなと初めは思いました。私にとって里子は兄弟とは全く違う存在ですが、いどこよりも親しいし、仲もいいし、本当に身近な存在です。例えば、合宿所の寮生活の仲間みたいな感じでした。一番人数が多い時で、祖母と父と母と私の兄弟が4人で、プラス里子が4人いたときがありました。11人家族。御飯のときも鍋でドンと、さあ、食べてと、そんな感じで、いろいろ仕事も分担してやっていました。

私は小学生の頃からずっと習い事をしていて結構夜遅く帰ってくるが多かったのですが、家に帰ってくると知らない子がいます。その子は恐らく今日来たはずなのに、弟たちとこたつでミカンを食べながらトランプとかで盛り上がっているから、弟の友達なのか、里子なのか、私も区別が付きませんでした。母も慣れっこなので私たちに一々言いません。「今日から里子が来ます」とは聞きますが、1週間前は知らなくて、帰ってきて靴があったら誰かいるみたいな、そんな感じですね。

私と3歳離れた弟は、一番下というのもあって甘やかされていたのでしょうか。私はすごく気が強くて、弟たちにがんが言うので、弟たちは余り私に言ってこれない感じでした。例えば、見たいテレビで争った場合も、「面倒くさいから、おれがあっちへ行くよ」というような感じだったんです。最近、留学生も家にいるので、弟

と里子と留学生でテレビゲームやっているのと、ちょっと私も言いづらいので、DVDはパソコンで見るようにしています。

いろいろな里子が来てすごくおもしろいです。少し遅れのある子とかもたくさん見てきましたが、ものすごく能力の高い子とか、ものすごく運動神経がいい子とかもたくさんいました。私は体育祭が近づくと夕食後3キロぐらい走ったりしましたが、里子に「走る？」と言うと結構「走る」とついてきた子もいました。

私は、高飛び込みを専門でやっているのですが、その里子も高飛び込みをやってみたいというので、連れていきました。結果は「絶対二度とやりたくない」と言われてしまいました。その子は「絶対連絡するからね、お姉ちゃん」と言って帰っていったのに、その後、全然連絡もくれません。逆にすごくおとなしい子で、自分を表現するのがうまくない子で、うちにいて楽しいのか全然私もつかめなかったんですが「今年のお正月も遊びに来たい」と言っていたので、本当は楽しかったんだとそこで初めて知りました。今、母は里子たちと旅行に行っては楽しんでます。



平成19年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童 相談所	参加人数				
				養育家庭・ フレッドホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	合計
8月28日	文京シビックセンター2101,2102会議室 (文京区)		センター	0	5	12	15	32
9月13日	墨田区役所1階すみだリバーサイドホールミニシ アター(墨田区)		墨田	3	4	2	14	23
9月26日	三鷹市産業プラザ (三鷹市)		杉並	3	12	4	12	31
9月27日	台東区生涯学習センター (台東区)		センター	0	6	3	50	59
9月27日	足立区エル・ソフィア (足立区)		足立	9	9	6	13	37
9月28日	昭島市児童センター (昭島市)		立川	6	2	0	12	20
10月5日	府中市子ども家庭支援センターたつち (府中市)		多摩	0	9	14	12	35
10月12日	立川市女性総合センター・アイム (立川市)		立川	3	3	8	12	26
10月16日	板橋区立グリーンホール (板橋区)		北	4	4	3	14	25
10月18日	葛飾区男女平等推進センター (葛飾区)		足立	5	14	5	10	34
10月18日	日野市役所5階505会議室 (日野市)	西澤 哲	八王子	10	18	7	33	68
10月18日	国分寺市Lホール (国分寺市)		小平	6	7	2	14	29
10月19日	中野区勤労福祉会館 (中野区)		杉並	4	17	13	12	46
10月19日	武蔵村山市民総合センター (武蔵村山市)		小平	1	6	0	15	22
10月24日	コールド無イベントルーム (西東京市)		小平	2	6	14	15	37
10月26日	北とびあ (北区)		北	2	3	7	18	30
10月26日	杉並児童相談所 (杉並区)		杉並	4	17	13	12	46
10月26日	国立市民総合体育館 (国立市)		立川	0	3	0	6	9
10月29日	多摩市立健康センター (多摩市)		多摩	2	10	0	15	27
10月29日	町田市民フォーラムホール (町田市)	加藤尚子	八王子	6	18	32	56	112
10月30日	調布市文化会館たづくり8階映像シアター (調布市)		多摩	9	26	2	16	53
10月31日	武蔵野市西久保コミュニティセンター (武蔵野市)		杉並	4	11	2	16	33
11月2日	世田谷区三茶しゃれなあどオリオンホール (世田谷区)		世田谷	8	19	26	13	66
11月7日	区民センター(コアいけぶくろ)5階音楽室 (豊島区)		センター	1	6	37	19	63
11月8日	大久保地域センター多目的ホール (新宿区)	千葉茂明	センター	1	9	32	45	87
11月8日	江東区教育センター (江東区)		墨田	5	14	4	25	48
11月10日	大田区役所2階会議室 (大田区)		品川	1	5	31	34	71
11月16日	あきる野市公民館 (あきる野市)		立川	10	3	1	21	35
11月20日	八王子市クワイエットホール5階 (八王子市)	三沢直子	八王子	11	26	7	41	85
11月21日	東村山市民センター別館 (東村山市)		小平	3	5	12	28	48
11月25日	男女平等参画センター5階ホール (港区)	風見しんご	センター	0	31	25	62	118
11月26日	狛江市役所4階特別会議室 (狛江市)		世田谷	3	12	11	5	31
11月27日	アクト21(男女平等推進センター) (荒川区)		北	5	13	14	28	60
11月28日	稲城市地域振興プラザ4階 (稲城市)		多摩	1	10	9	11	31
11月28日	東久留米市役所市民プラザ (東久留米市)		小平	6	4	14	11	35
12月1日	中小企業センター大会議室 (品川区)		品川	2	19	48	41	110
12月5日	東大和市役所会議棟2階 (東大和市)		小平	5	6	15	8	34
12月11日	目黒区役所総合庁舎E会議室 (目黒区)		品川	4	12	9	25	50
12月13日	小平市中央公民館ホール (小平市)		小平	5	7	14	27	53
1月21日	渋谷区役所A会議室 (渋谷区)		センター	2	6	3	12	23
1月24日	千代田区役所401会議室 (千代田区)		センター	1	8	4	11	24
1月24日	清瀬市児童センターこども会議室 (清瀬市)		小平	4	5	8	8	25
1月31日	練馬区役所20階交流会場 (練馬区)		センター	1	6	11	20	38
1月31日	小金井市前原暫定集会施設A (小金井市)		小平	2	5	17	6	30
2月22日	多摩市立健康センター (多摩市)		多摩	0	8	0	13	21
2月22日	東青梅センタービル3階会議室 (青梅市)		立川	5	3	49	7	64
3月6日	中央区月島社会教育会館ホール (中央区)		センター	0	7	24	15	46
3月18日	江戸川区総合文化センター (江戸川区)		墨田	5	7	46	17	75
合 計				174	466	620	945	2,205

平成19年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	8/28 文京	9/13 墨田	9/26 三鷹	9/27 台東	9/27 足立	9/28 昭島	10/5 府中	10/12 立川	10/16 板橋	10/18 葛飾	10/18 日野	10/18 国分寺	10/19 中野	10/19 武蔵村山	10/24 西東京	10/26 北	10/26 杉並	10/26 国立
年齢																		
～20代	1	2	1	4	0	0	5	3	6	1	3	3	1	1	3	2	3	0
30代	2	1	1	1	0	2	0	2	2	2	5	8	1	0	4	0	3	0
40代	4	1	6	3	6	5	4	2	2	3	10	4	2	1	3	2	1	0
50代	9	4	2	8	5	4	3	6	4	2	14	4	3	0	5	7	8	0
60代～	9	3	0	13	8	1	14	2	3	7	9	6	5	2	6	6	0	0
不明・無回答	0	0	1	24	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
性別																		
男性	6	5	2	13	2	1	3	1	4	1	5	10	1	2	2	4	0	0
女性	19	6	9	23	15	12	21	13	13	13	36	14	12	2	19	13	14	0
不明・無回答	0	0	0	4	3	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
所属																		
養育家庭	0	1	0	0	5	2	0	0	1	2	10	4	1	0	0	0	0	0
フレンドホーム	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0
都職員	1	0	0	0	2	1	0	1	0	1	2	4	0	0	0	0	0	0
区市町村職員	2	2	2	6	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	2	0	0	0
民生児童委員	12	2	0	3	1	1	11	5	0	4	1	2	1	0	8	2	0	0
主任児童委員	4	0	1	0	4	2	2	5	2	0	4	0	3	0	1	4	9	0
学生	0	3	1	3	0	0	3	1	6	0	2	1	0	0	1	1	3	0
一般	6	2	3	8	4	7	3	5	3	6	7	6	5	1	6	7	3	0
その他	0	1	4	18	0	1	3	3	3	0	12	3	2	3	2	3	0	0
不明・無回答	0	0	0	1	3	0	5	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																		
区報・市報で		1	0	7	4	7	13	6	4	7	6	4	4	0	9	11	2	0
都報で		0	0	2	1	0	0	0	2	0	2	3	0	1	4	0	1	0
ポスターで		0	0	3	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0
チラシで		1	2	7	2	4	8	5	2	3	16	10	4	0	6	2	9	0
インターネットで		0	0	1	0	2	0	2	2	0	6	2	4	0	3	0	1	0
知人に勧められて		2	3	7	0	2	2	6	2	0	6	2	1	3	1	2	2	0
過去に参加		0	1	0	5	0	3	0	2	4	7	5	3	1	5	2	5	0
問い合わせた		0	1	1	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0
その他		6	0	14	4	0	8	0	5	0	9	6	0	0	2	0	3	0
不明・無回答		0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																		
養育家庭になりたいと思っていたから	3	0	1	3	0	0	0	0	0	1	3	0	4	0	2	1	1	0
養育家庭制度に興味・関心があったから	10	5	5	11	8	13	12	7	8	9	15	17	9	1	10	6	7	0
子育てに関わる話が聞けると思ったから	4	1	2	12	7	3	3	2	3	6	12	8	2	1	6	6	3	0
仕事や学問などの参考にするため	7	4	7	14	5	1	15	6	8	2	12	7	1	4	10	6	6	0
その他	5	0	1	4	3	0	1	1	1	0	8	3	0	0	0	0	1	0
不明・無回答	0	1	0	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	13	6	5	19	9	11	15	7	11	11	35	11	5	3	15	6	10	0
良かった	20	4	5	14	6	1	11	8	4	0	6	10	7	0	4	8	5	0
普通	1	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	0	0	1	5	4	0	1	0	1	4	0	3	1	0	2	1	0	0
感想	7	4	6	24	14	9	21	10	14	8	25	17	9	2	12	10	6	0
アンケート回答	25	11	11	40	20	12	27	15	17	15	41	25	13	4	21	17	15	0
参加者総数	32	23	31	59	37	20	35	26	25	34	68	29	46	22	37	30	46	9

※国立市は、アンケート実施せず。

平成19年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/29 多摩	10/29 町田	10/30 調布	10/31 武蔵野	11/2 世田谷	11/7 豊島	11/8 新宿	11/8 江東	11/10 大田	11/16 あきる野	11/20 八王子	11/21 東村山	11/25 港	11/26 狛江	11/27 荒川	11/28 稲城	11/28 東久留米	12/1 品川
年齢	12	0	8	2	2	2	10	2	4	1	5	1	5	2	3	0	1	5
30代	7	1	6	1	5	6	4	2	2	5	6	1	9	1	3	0	2	1
40代	16	8	6	2	4	10	6	3	6	7	5	5	17	8	3	4	1	8
50代	19	8	9	5	6	10	9	4	14	5	11	8	4	6	12	4	3	26
60代～	24	2	4	3	12	31	22	10	19	4	13	11	23	5	18	7	7	33
不明・無回答	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0
性別	16	2	11	1	1	5	11	7	6	1	9	24	12	4	6	3	3	8
男性	59	17	23	12	28	52	44	14	36	20	31	0	46	17	33	11	11	62
女性	4	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0	2	1	0	1	0	3
不明・無回答	3	2	4	0	0	0	0	0	1	4	7	3	0	1	1	0	3	1
所属	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
養育家庭	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4	0	0	2	1
フレンドホーム	17	0	11	0	0	6	3	5	3	1	8	0	0	0	10	0	0	14
都職員	25	0	0	1	13	36	26	4	24	0	4	9	24	10	13	8	3	39
区市町村職員	10	5	1	2	2	1	6	0	5	0	1	2	1	0	1	0	3	5
民生児童委員	0	0	3	2	1	0	4	2	0	0	2	1	6	0	1	0	1	3
主任児童委員	10	10	7	5	8	11	6	6	11	12	12	7	25	2	6	6	3	8
学生	18	0	5	2	3	1	8	4	0	1	6	3	3	0	4	1	2	1
一般	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	3	2	0	0	0
その他	0	0	0	0	2	1	2	5	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0
不明・無回答	どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																	
区報・市報で	23	4	10	7	8	13	13	7	9	11	8	3	22	0	13	5	1	29
都報で	1	4	2	1	1	9	6	3	9	5	5	4	4	0	7	2	2	3
ポスターで	0	0	0	0	3	1	3	2	2	0	1	1	7	0	3	2	1	1
チラシで	28	2	9	4	5	5	9	4	2	4	12	5	9	0	2	3	4	11
インターネットで	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1	3	0	1	0	0	6
知人に勧められて	5	2	4	3	2	1	2	3	1	2	2	4	7	0	10	0	3	4
過去に参加	4	2	5	1	4	14	16	2	8	1	10	9	2	0	3	0	6	17
問い合わせた	2	0	1	1	0	8	2	2	5	0	1	0	4	0	0	0	0	1
その他	15	6	10	2	0	14	20	0	14	2	0	1	14	0	3	3	0	22
不明・無回答	0	0	0	0	2	1	2	5	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)	今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																	
養育家庭になりたいと思っていたから	3	5	3	2	0	2	1	1	4	4	5	1	2	1	3	2	2	6
養育家庭制度に興味・関心があったから	21	4	13	7	12	32	13	10	15	8	11	10	24	8	9	10	3	33
子育てに関わる話が聞けると思ったから	15	5	5	2	8	20	14	5	17	6	12	11	22	6	11	6	5	17
仕事や学問などの参考にするため	30	7	20	4	5	10	25	8	7	8	18	4	13	6	13	2	5	17
その他	8	0	2	0	0	4	10	3	7	3	3	3	9	2	3	2	0	3
不明・無回答	0	0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	3	2	3	0	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。	今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																	
とても良かった	35	11	24	10	21	41	20	14	18	11	22	17	22	15	17	9	6	50
良かった	25	7	6	2	5	11	25	5	23	5	9	5	31	5	12	2	7	14
普通	4	0	0	0	1	0	0	1	2	1	3	1	3	0	2	0	0	0
あまり良くなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	0	0	4	1	0	5	4	1	2	0	6	3	3	3	8	0	1	0
感想	33	14	17	5	18	40	25	10	18	9	30	17	20	8	17	10	8	44
アンケート回答	79	19	34	13	29	59	56	21	45	22	40	26	60	23	39	15	14	73
参加者総数	27	112	53	33	66	63	87	48	71	35	85	48	118	31	60	31	35	110

※国立市は、アンケート実施せず。



平成19年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	12/5 東大和	12/11 目黒	12/13 小平	1/21 渋谷	1/24 千代田	1/24 清瀬	1/31 練馬	1/31 小金井	2/22 多摩	2/22 青梅	3/6 中央	3/18 江戸川	総計
年齢													
～20代	1	2	5	2	1	3	0	0	2	0	8	1	129
30代	1	4	3	3	1	1	4	3	1	1	2	1	121
40代	2	8	3	1	3	2	5	2	2	4	1	8	219
50代	4	4	11	6	9	2	10	5	4	5	6	13	330
60代～	9	8	16	2	1	4	13	8	3	38	19	28	491
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	44
性別													
男性	2	4	1	4	1	2	3	0	1	25	4	8	247
女性	14	21	35	10	13	9	26	15	13	22	33	43	1,024
不明・無回答	1	2	2	0	1	1	3	3	0	1	0	1	44
所属													
養育家庭	0	1	2	1	1	1	1	0	0	2	0	1	66
フレンドホーム	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	17
都職員	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4	1	35
区市町村職員	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	101
民生児童委員	10	0	16	2	2	4	6	2	0	41	17	35	427
主任児童委員	0	6	1	1	2	1	5	9	0	0	0	5	116
学生	1	0	3	0	0	2	0	0	1	0	1	1	60
一般	3	9	2	8	3	3	16	4	12	3	12	6	318
その他	0	5	13	2	5	0	3	2	0	0	2	1	153
不明・無回答	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	31
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)													
区報・市報で	4	5	18	4	1	2	9	3	1	24	11	20	373
都報で	1	0	5	1	2	0	7	0	1	2	6	4	113
ポスターで	2	1	2	0	1	0	3	1	0	0	2	3	52
チラシで	7	6	4	3	5	3	4	10	0	1	7	18	267
インターネットで	0	6	0	4	0	2	1	0	0	0	1	1	55
知人に勧められて	1	5	2	0	2	0	5	0	1	5	4	3	124
過去に参加	3	5	2	2	0	1	2	1	0	3	0	3	169
問い合わせた	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	40
その他	6	6	0	2	4	0	10	5	9	12	7	8	252
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	10	0	0	2	2	2	37
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)													
養育家庭になりたいと思っていたから	1	3	3	0	0	2	5	3	1	0	2	1	87
養育家庭制度に興味・関心があったから	6	13	14	8	8	5	13	8	2	16	18	22	529
子育てに関わる話が聞けると思ったから	5	8	17	3	4	2	14	2	5	21	6	16	371
仕事や学問などの参考にするため	3	4	10	5	4	6	4	6	6	9	10	10	394
その他	2	2	5	0	2	0	4	2	0	8	5	1	121
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	2	33
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													
とても良かった	8	12	20	9	12	3	26	10	11	21	29	22	738
良かった	7	10	15	2	3	5	5	7	2	22	5	18	413
普通	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	1	3	37
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	4	0	1	0	4	0	1	0	2	0	8	86
感想	8	16	21	8	7	8	21	11	11	5	20	24	701
アンケート回答	17	26	38	14	15	12	32	18	13	47	37	52	1,317
参加者総数	34	50	53	23	24	25	38	30	21	64	46	75	2,205

※国立市は、アンケート実施せず。

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき  
ない子どもたちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生  
活し、養育していただく里親制度です。**

**【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】**

**★ 申し込み資格はあるの？**

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。  
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。  
配偶者がいない場合は、子どもの養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

**★ お預かりいただく子どもは？**

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子どもです。

**★ お預かりいただく期間は？**

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子どもを継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

**★ 養育に係る費用は？**

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

**★ 養育に必要な支援は？**

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子どもの養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

**【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】**

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



## ほっとファミリー ホームページ

---

こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集  
平成20年9月発行

登録番号(20)131

発行 東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課  
東京都新宿区西新宿2-8-1  
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406  
印刷所 東京都大田福祉工場  
東京都大田区大森西2-22-26  
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。